

平成 21 年度〔第 20－K2456－01 号〕二級河川巴川（麻機遊水地）
総合治水対策特定河川工事に伴う自然環境調査業務委託（植物調査）

報告書

平成 22 年 3 月

特定非営利活動法人麻機湿原を保全する会

VI.外来植物

「注」 VIの頁の構成は頁1～頁15
頁

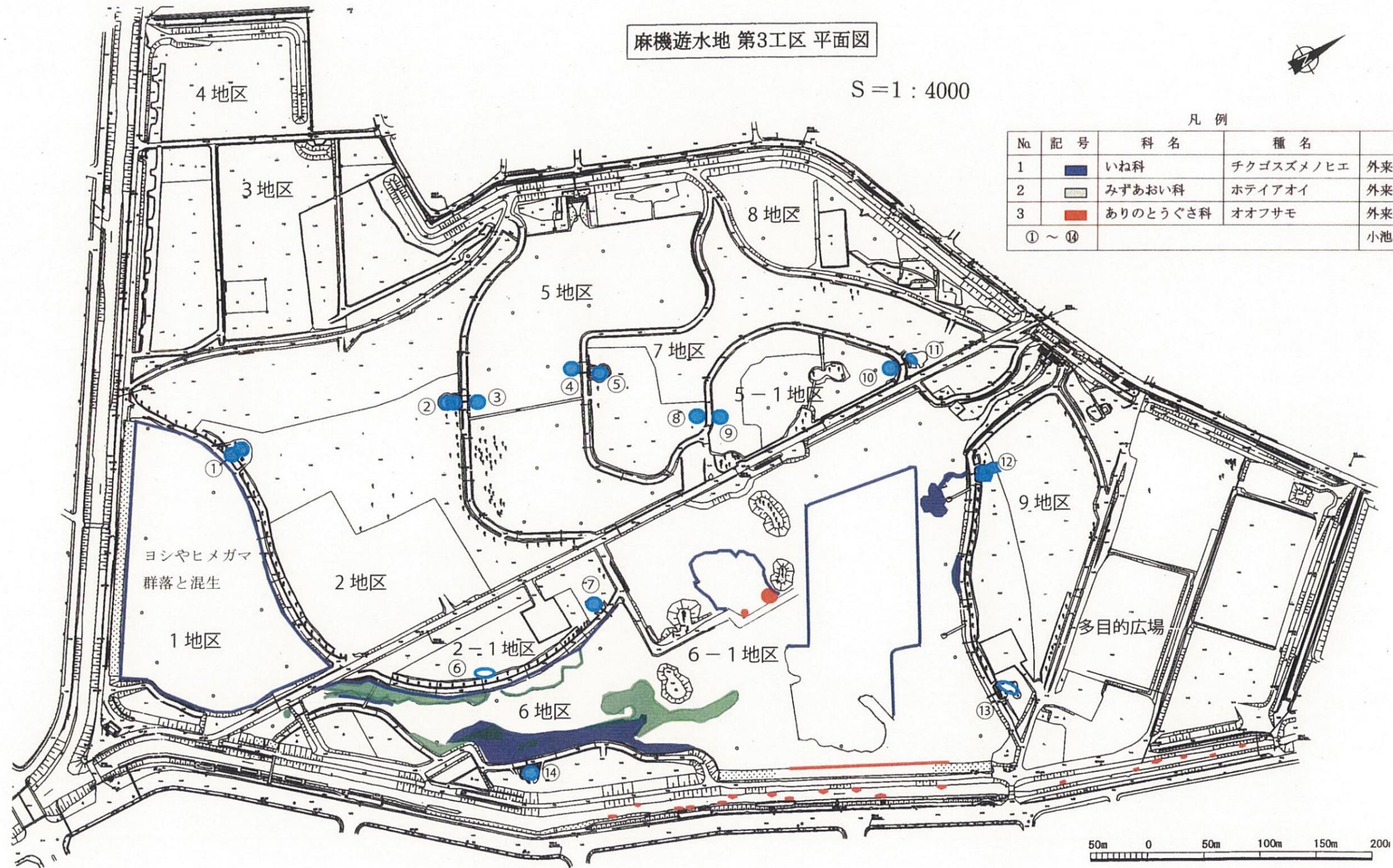
- | | | |
|-----------------------|-------|------|
| 1. 外来植物（陸域）の生育状況 | …………… | 1 |
| 2. " （水域）の " | …………… | 2～14 |
| 3. " の標本 | …………… | 15 |

（15頁以降 頁なし）

2. 外来植物（水域）の生育状況

本調査は第3工区と第4工区（現在浄化対策工事等の区域を除く）の植生図を作成した。

第3工区 水域内の外来植物の植生図





①の植生状況 水際線のヒメガマやマコモ群落にはチクゴスズメノヒエが生育している。



②の植生状況 ヨシやマコモが刈り取られ釣り場が造られているが小路にはチクゴスズメノヒエが生育している。

6 地区



6 地区の下流①の植生状況

10月のクリーン作戦ではホテイアオイの駆除が行われ、この場所にホテイアオイはみられない。



②の植生状況 同上



③の植生状況

チクゴスズメノヒエとホテイアオイの大群落が見られる。

6 地区



前頁③夏期の植生状況 平成 21 年 6 月 26 日 (金) 撮影

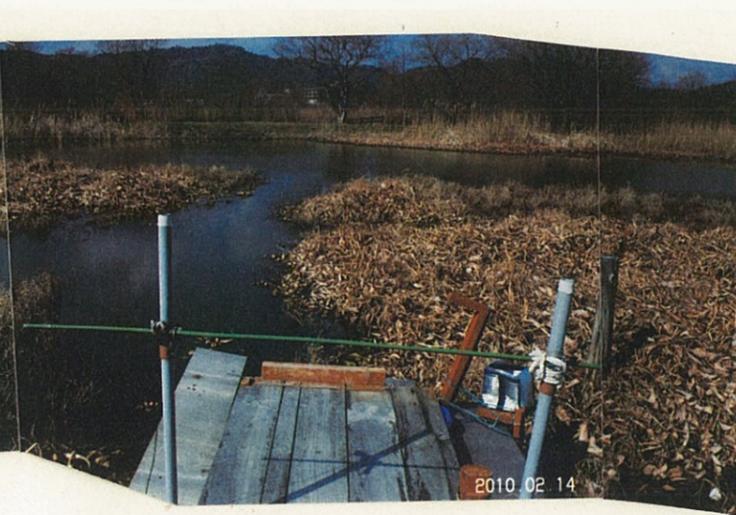


同 左

6 地区-1



④の植生状況 チクゴスズメノヒエとホテイアオイの大群落が見られる。

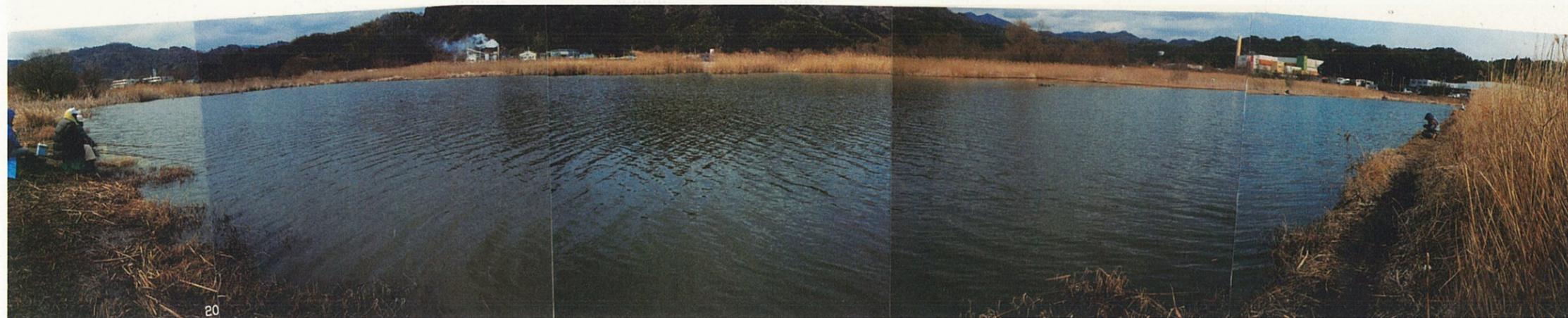


⑤の植生状況 前写真の上流にあたりチクゴスズメノヒエ群落にホテイアオイの生育が見られる。





①の植生状況 ヨシやマコモ群落内にチクゴスズメノヒエが生育している。



②チクゴスズメノヒエの生育状況

「注」水際線に列状に生育している。また、ヨシ、マコモの群落内にも生育している。



③オオフサモの生育状況

「注」○印のメダケは10月5日に目印として立てたもので生育域を拡大しつつある。



前頁③の拡大 ホテアオイとチクゴスズメノヒエの生育状況



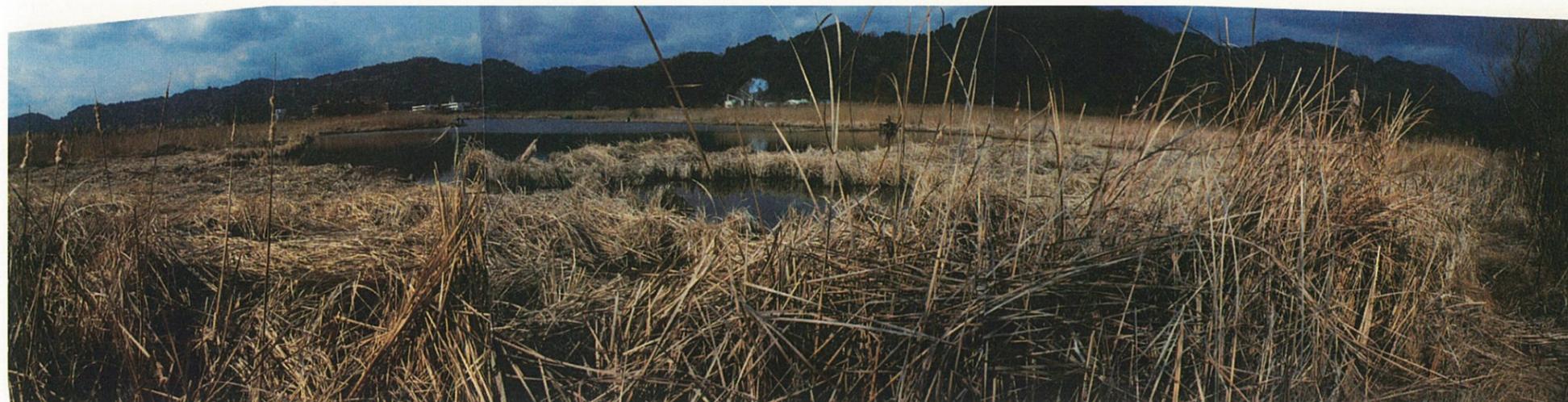
④の植生状況 マコモとヒメガマ群落内のチクゴスズメノヒエの生育がみられる。



⑤の植生状況

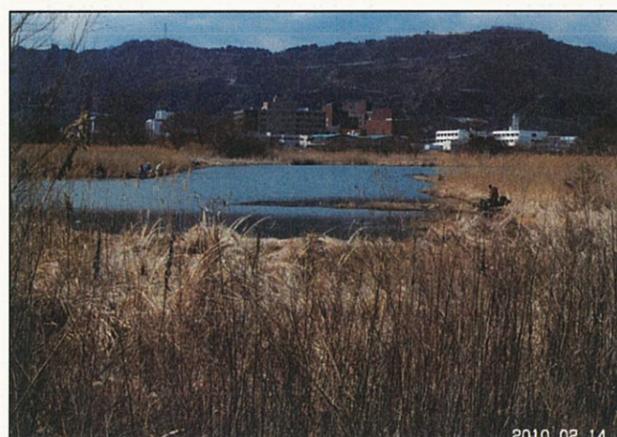
「注」水際線のマコモ（列状）の中にチクゴスズメノヒエがみられる。

6 地区-1

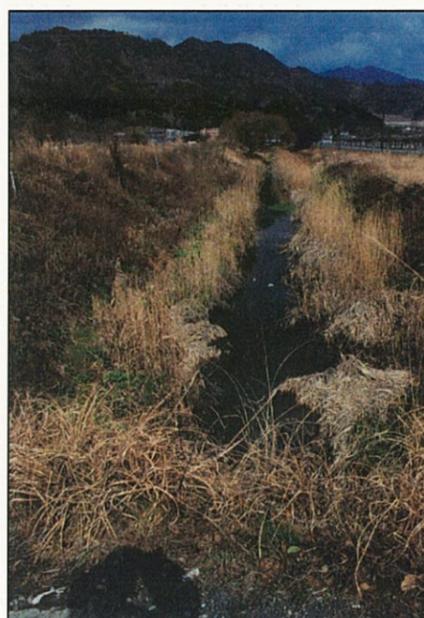


⑥の植生状況

「注」池沼の水際線やヒメガマやマコモ群落内にチクゴスズメノヒエがみられる。

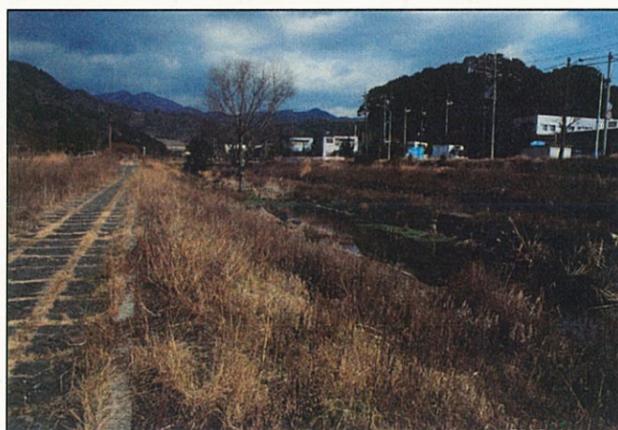


同 上 池沼の状況



同 左

「注」 二級河川浅畑川にオオフサモの群落が蘇えっていて、出水時には上段の写真あたり（越流堤）から分枝が流入している。池沼の護岸沿いにオオフサモの生育を確認した。



二級河川浅畑川のオオフサモの生育状況

小池の状況



2地区 ①チクゴスズメノヒエの生育状況
「注」小池の下と上の周囲にも群落で生育している。



2-1地区 ⑥ホテイアオイとチクゴスズメノヒエの生育状況
「注」赤い浮遊植物はアカウキクサ



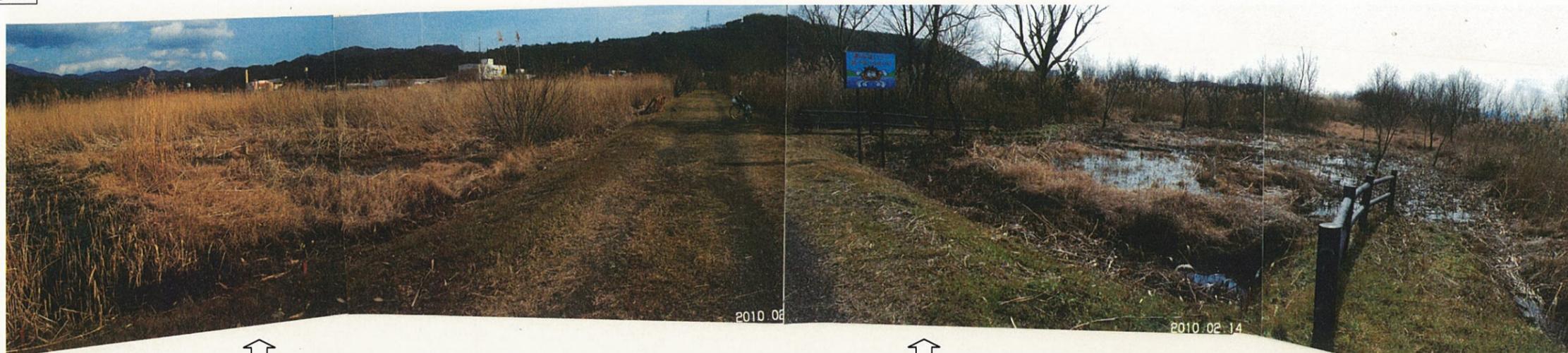
2地区 ②チクゴスズメノヒエの生育状況
「注」小池内のチクゴスズメノヒエは駆除されているようだが小池の周囲にも群落が見られる。

5地区 ③チクゴスズメノヒエが生育状況
「注」小池の周囲にも群落で成育している。



2地区 ⑦チクゴスズメノヒエとホテイアオイが生育している。「注」チクゴスズメノヒエは小池の周囲にも生育している。

小池の状況



↑ 5地区 ④チクゴスズメノヒエの生育状況

↑ 7地区 ⑤チクゴスズメノヒエの生育状況

「注」二つの小池の周囲にもチクゴスズメノヒエが生育している。



↑ 7地区 ⑧チクゴスズメノヒエの生育状況

↑ 5-1地区 ⑨チクゴスズメノヒエの生育状況

「注」二つの小池の周囲にもチクゴスズメノヒエが生育している。



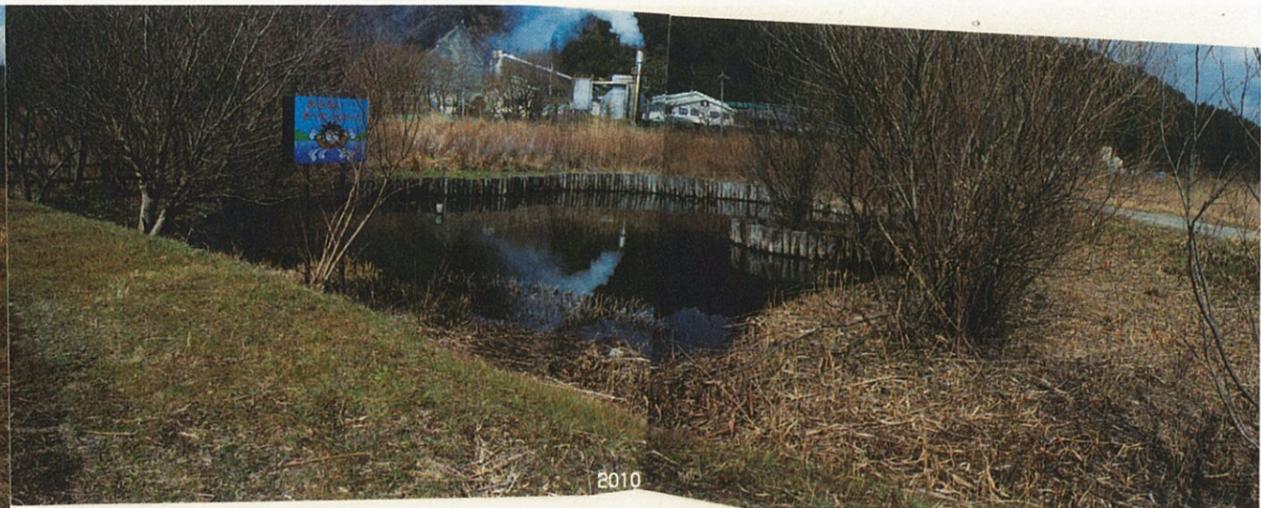
6地区 ⑭チクゴスズメノヒエの生育状況

「注」小池の周囲にまでチクゴスズメノヒエが生育している。

小池の状況



↑ 5-1地区 ⑩チクゴスズメノヒエの生育状況



↑ 7地区 ⑪チクゴスズメノヒエの生育状況



9地区 ⑫チクゴスズメノヒエの生育状況
「注」小池の水際線にチクゴスズメノヒエが生育している。



9地区 ⑬チクゴスズメノヒエの生育状況
(赤色はアカウキクサ VU)
「注」小池内やその周囲にチクゴスズメノヒエが生育している。

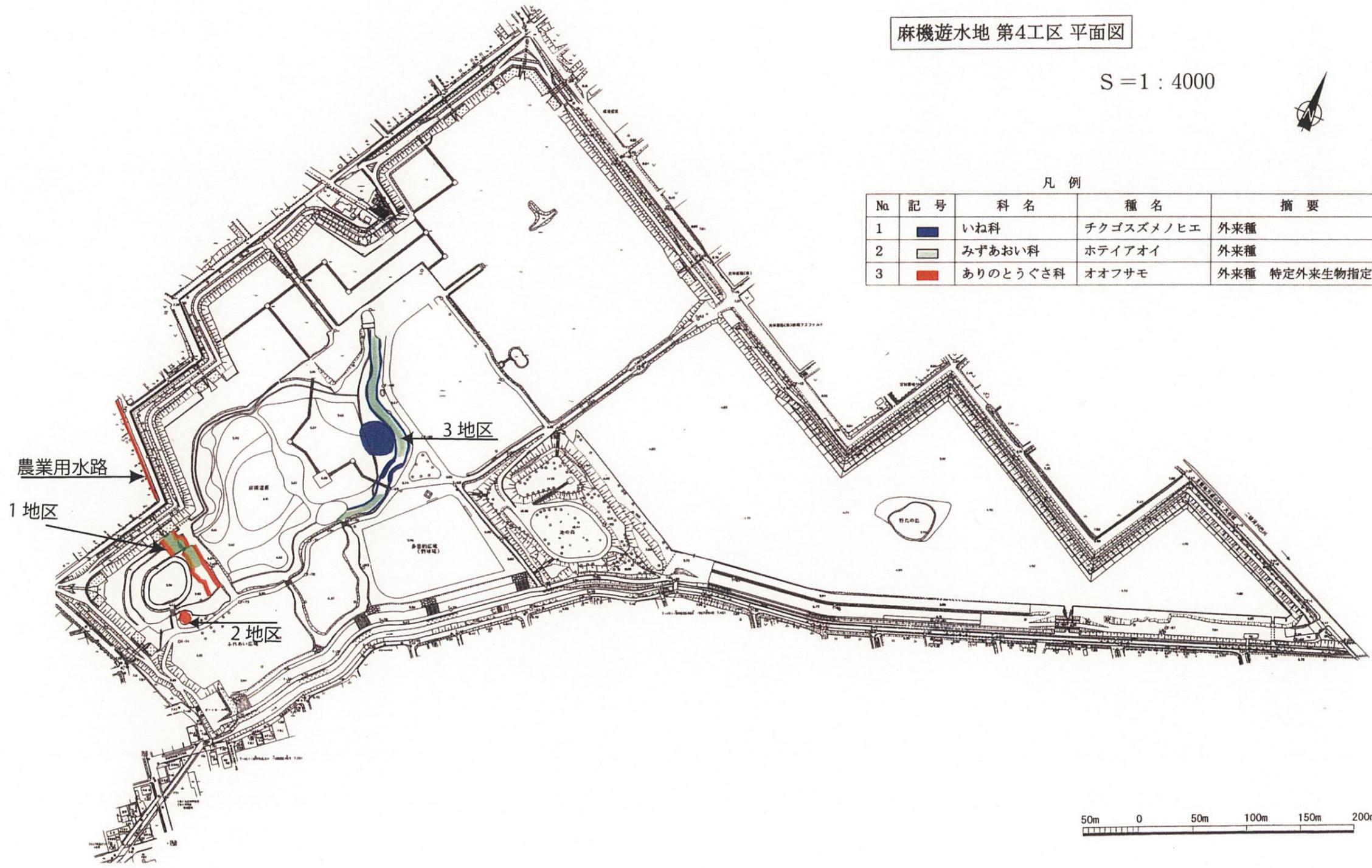
麻機遊水地 第4工区 平面図

S = 1 : 4000



凡例

No.	記号	科名	種名	摘要
1		いね科	チクゴスズメノヒエ	外来種
2		みずあおい科	ホテイアオイ	外来種
3		ありのとうぐさ科	オオフサモ	外来種 特定外来生物指定





1地区 オオフサモの生育状況 平成22年2月12日(金)撮影



2地区 オオフサモの生育状況



上流の農業用水路に生育するオオフサモ



上流の農業用水路に生育するオオフサモ



同 左



同 左



3地区に生育するホテイアオイとチクゴスズメノヒエ 平成21年12月10日(木)撮影



同上 平成22年1月27日(水)撮影



3地区に生育するホテイアオイとチクゴスズメノヒエ 平成21年10月23日(金)撮影

3.外来植物の標本のリスト

調査に併行して秋の外来植物 38 種を平成 21 年 10 月に採集し標本に作成した。

標本のリスト

科名	種名	P	科名	種名	P
たで	ナガバキシギシ	1	きく	オオキンケイギク	20
あかざ	アリタソウ	2		オオブタクサ	21
ひゆ	ホソアオゲイトウ	3		オニノゲシ	22
まめ	アレチヌスビトハギ	4		コセンダングサ	23
とうだいぐさ	オオニシキソウ	5		セイタカアワダチソウ	24
	ナンキンハゼ	6		ハルシャギク	25
みそはぎ	ホソバヒメミソハギ	7		ヒメジョオン	26
あかばな	コマツヨイグサ	8		ヒメムカシヨモギ	27
	ヒルザキツキミソウ	9		ヒロハホウキギク	28
	メマツヨイグサ	10		ブタクサ	29
	ヤマモモソウ (ハクチョウソウ)	11	みずあおい	ホテイアオイ	30
	ユウゲショウ	12	いね	オオクサキビ	31
ありのとうぐさ	オオフサモ	13		シナダレスズメガヤ	32
ひるがお	アメリカネナシカズラ	14		シマスズメノヒエ	33
	ホシアサガオ	15		セバンモロコシ	34
	マメアサガオ	16		タチスズメノヒエ	35
くまつづら	アレチハナガサ	17		チクゴスズメノヒエ	36
きく	アメリカセンダングサ	18		メリケンカルカヤ	37
	オオオナモミ	19	かやつりぐさ	メリケンガヤツリ	38

VI.外来植物の標本

調査に併行して外来植物 38 種を採集し標本に作成した。今後遊水地の維持管理計画の資料にしたい。

標本のリスト

科名	種名	P	科名	種名	P
たで	ナガバギシギシ	1	きく	オオキンケイギク	20
あかざ	アリタソウ	2		オオブタクサ	21
ひゆ	ホソアオゲイトウ	3		オニノゲシ	22
まめ	アレチヌスビトハギ	4		コセンダングサ	23
とうだいぐさ	オオニシキソウ	5		セイタカアワダチソウ	24
	ナンキンハゼ	6		ハルシャギク	25
みそはぎ	ホソバヒメミソハギ	7		ヒメジョオン	26
あかばな	コマツヨイグサ	8		ヒメムカシヨモギ	27
	ヒルザキツキミソウ	9		ヒロハホウキギク	28
	メマツヨイグサ	10		ブタクサ	29
	ヤマモモソウ (ハクチョウソウ)	11	みずあおい	ホテイアオイ	30
	ユウゲショウ	12	いね	オオクサキビ	31
ありのとうぐさ	オオフサモ	13		シナダレスズメガヤ	32
ひるがお	アメリカネナシカズラ	14		シマスズメノヒエ	33
	ホシアサガオ	15		セバンモロコシ	34
	マメアサガオ	16		タチスズメノヒエ	35
くまつづら	アレチハナガサ	17		チクゴスズメノヒエ	36
きく	アメリカセンダングサ	18		メリケンカルカヤ	37
	オオオナモミ	19	かやつりぐさ	メリケンガヤツリ	38

1~2. ナガバギシギシ *Rumex crispus* →p.49

1. 北海道平取町 / 1987. 7. 28 / 梅沢
2. 東京都町田市 / 1989. 6. 5 / 佐藤



2. 果実



4. ナガバギシギシ 園 Curled dock, Sour dock
Rumex crispus L. PL.6-1~2

荒地や路傍に生える多年草。茎は直立して高さ0.8-1.5m, 上部で分枝し, 枝はほぼ直立する。根生葉と下部の茎葉はふつう花時に生存して長柄があり, 葉身は長楕円形, 長さ10-30cm, 幅3-8cm, 円頭, 基部は広くさび形一切形, 縁はいちじろしく波状となり, 無毛。茎葉は短柄があり, 上部のものはしだいに小型となって苞葉に移行する。花は4-7月, 茎の上部と枝の節に密に束生し, 円錐状の花序をつくる。果時の内花被片は卵円形, 長さ4-5mm, 幅3-4.5mm, 円頭, 緑白色, 側縁は張り出しほぼ全縁, 瘤体は3枚の花被片のうち1枚で特に発達し卵形, 長さ約2.5mm。他の2枚では小型。瘦果は褐色で3稜形。図 $2n = 60$ 。北海道~琉球に分布する。〔原産地〕ユーラシア。〔渡来〕牧野富太郎によって東京で採集され和名がつけられた(牧野 1891 植雑 5: 330)。〔メモ〕本種は日本在来のギシギシ *R. japonicus* Houtt. に酷似するが, ギシギシは枝がやや開出し葉縁はあまり波状とならず, 果時の内花被片は三角状卵形で側縁は鋸歯縁となり, 瘤体は3枚の花被片ともに等しく発達するので区別でき, 染色体数も $2n = 100$ と異なる。ギシギシとナガバギシギシの混生地では中間型がしばしば見られ, それらは両者の雑種と推測されている。

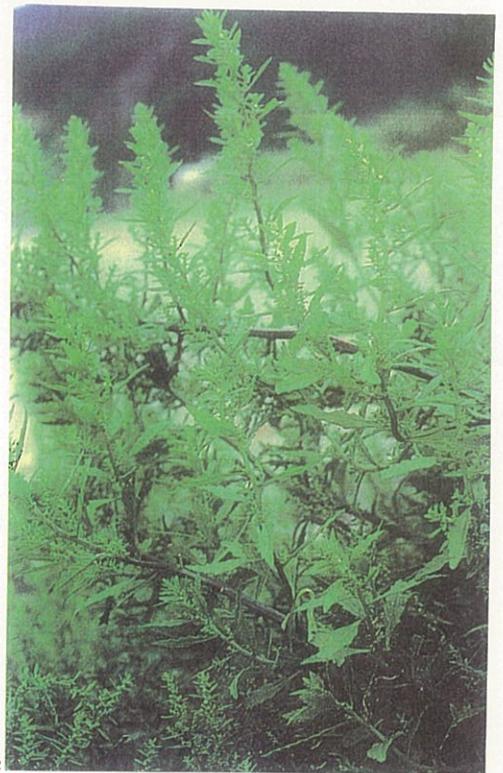
年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	たで科
種名	ナガバギシギシ



1. アリタソウ 園 Mexican tea, American wormseed

Chenopodium ambrosioides L. var. *ambrosioides*
Pl. 17-2-3

荒地や道路脇ののり面などによつうに生える一年草。茎や葉の裏に黄色の腺体があり、強い匂いを放つ。高さ 30-80 cm。葉は卵形-披針形、基部はくさび形で短い柄に続き、葉身は長さ 3-13 cm、幅 0.5-3.5 cm、両側に不ぞろいの深い鋸歯がある。花期は 7-11 月。花は両性花と雌花があり、少数個が集まって頭状の分花序をつくり、花序の枝に断続的に並び分花序の苞葉はふつうそれより長い。図 2n = 16, 32, 64。北海道(まれ)、本州(岩手・山形県以南)~九州に分布する。〔原産地〕メキシコ。〔渡来〕久内清孝(1950)は、「寛文年間(1661-73)に来る」と記す。国立科学博物館に 1888 年に桜井半三郎が鹿児島県仙田村(現開聞町)で、1913 年に根本莞爾が東京都の小石川植物園で採った標本がある。〔メモ〕茎や葉に縮毛や腺毛が多いものをケアリタソウ var. *pubescens* (Makino) Makino とよぶこともあるが、変異は連続的である。

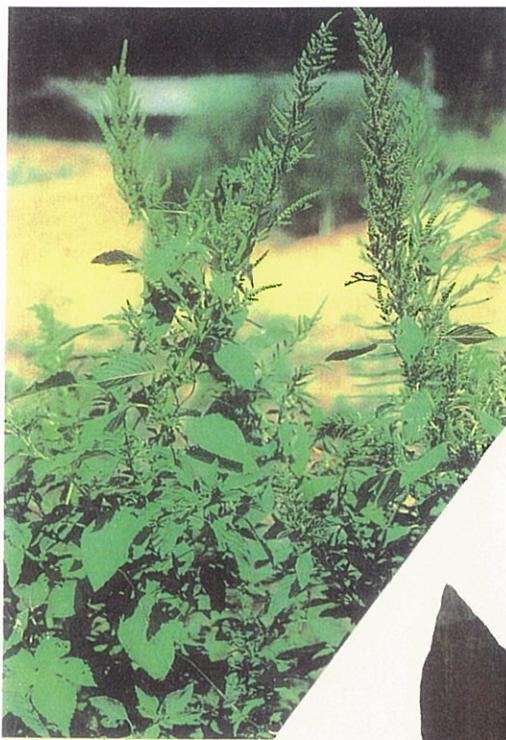


2-3. アリタソウ *C. ambrosioides* v. *ambrosioides* →p.65
2. 千葉県銚子町/1994. 10. 13/鈴木庸
3. 神奈川県足柄峠/1998. 9. 8/いがり



3

年月日	2009年 10月 8日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	あかざ科
種名	アリタソウ



4. 花序が紅紫色の型

3~5. ホソアオゲイトウ

A. hybridus → p.72

3. 岡山市/1984. 8. 28./小島

4. 埼玉県東松山市/1992. 10. 4./木原

5. 山形市/1999. 8. 30./鈴木庸



5



6. ホソアオゲイトウ 図 Smooth pigweed

Amaranthus hybridus L.; *A. patulus* Bertol.

PL21-3-5

荒地や路傍に生える一年草。茎は直立し、ふつう高さ0.5-2 mだが、条件の悪い場所では高さ5 cm程度で開花することもあり、淡緑色ときに帯赤色、軟毛が生える。葉は長さ2-7 cmの柄があり、葉身は卵形-菱形状卵形、長さ4.5-13 cm、幅2-8 cm、鈍頭-鋭頭まれにやや凹頭、基部はくさび形、全縁、上面緑色で無毛、下面淡緑色で脈上に有毛。花は6-10月に咲き、雌雄同株。花序は頂生および腋生し、緑色まれに紅紫色。頂生の花序は円錐状、下部には多数の枝を分け、頂端は伸長して花穂状となり、径6-14 mm、先端は直立またはやや下垂し、軸には雌毛を密生する。腋生の花序は短く、基部付近に少数の枝を出す。小苞は1枚で、白色まれに帯紅紫色、披針形で長さ2-4 mm、鋭尖頭。花被片は(4-)5枚で長さ1.5-2 mm、長楕円形、卵形またはやや倒卵形、鋭頭、中央脈は緑色まれに帯紅紫色で先端に達する。果実は花被片とはほぼ同長かやや長く、横に裂開し、中に1種子を含む。種子は黒色-黒褐色で径約1 mm、光沢がある。図2n=32。北海道-琉球に分布し、ごくふつうに見られる。[原産地] 熱帯アメリカ。[渡来] 過去に採集された標本から、1920年代後半には帰化していたことが推測されるが、37年に原産地によって認識され和名がつけられるまでは、アオゲイトウと混同されていた(原1937 植研13:58)。[メモ] 日本では本種は従来 *A. patulus* Bertol. と同定され、*A. hybridus* L. の学名はホナガアオゲイトウに当てられてきたが、近年では *A. hybridus* L. はホソアオゲイトウに適用するのが正しいとされている。本種とアオゲイトウ、ホナガアオゲイトウとの間には互いに雑種が生じ、そのために区別が困難となることが多い。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	ひよこ科
種名	ホソアオゲイトウ



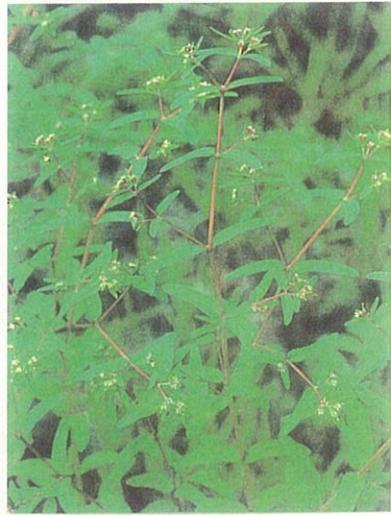
4~5. アレチヌスピトハギ
Desmodium paniculatum →p.106
 4. 京都府田辺町/1989. 10. 16/鈴木庸
 5. 熊本県玉名市/1989. 9. 10/浜田



4. アレチヌスピトハギ 園 Panicled tick-trefoil
Desmodium paniculatum (L.) DC.; *Hedysarum*
paniculatum L.
 PL42-4~5

平地, 市街地の日当たりのよい空き地, 雑草地, 開発された跡地, 道端などに生える直立または斜上する多年草。植物体は高さ30-100cm, 全体無毛または鉤毛がある。葉は3小葉をつけ, 側小葉は左右非相称で頂小葉よりも少し小さい。頂小葉は狭卵形~卵形または狭長楕円形, 長さ4-10cm, 幅1-3cm, 鋭頭~鋭尖頭, 基部は鈍形, 両面に伏した軟毛がある。葉柄は長さ2-5cm。托葉は線形~狭卵形で先は伸び, 長さ3-6mm。花期は9-10月。茎頂に円錐花序, 上部の葉腋に総状花序をつけ, 花序軸は有毛。小花柄は長さ4-11mm, 細かい鉤毛がある。萼は長さ2-3mm。花は紅紫色, 長さ6-8mm。節果は扁平, 上部は直線状で下部が深くくびれ, 3-5個の小節果となり, 全体に細かい鉤毛がある。小節果はほぼ三角形, 長さ4-7mm, 幅3-4.5mm。図2 n = 22。本州(東北地方南部以西)~琉球に帰化している。北海道胆振からも報告がある。〔原産地〕北アメリカ東南部。〔渡来〕1940年大阪府で吉野善介により採集され, 命名された(久内清孝1941 植研17: 251)。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	まめ科
種名	アレチヌスピトハギ



4-5.
オオニシキソウ
C. nutans → p.137
4. 茨城県水海道市/
1994. 8. 25/永田
5. 千葉県柏市/
1972. 9. 18/夏理



3. オオニシキソウ 園 Eyebane
Chamaesyce nutans (Lag.) Small; *Euphorbia nutans* Lag.; *E. maculata* auct. non L.

PL.56-4~5
路傍，耕地，川の土手などに生える一年草。茎は直立しアーチ状で，長さ18-63cm，表面に短軟毛があり，裏面は無毛。葉は対生し，楕円形~長楕円形，葉身は長さ1.6-3.5cm，幅0.5-1.4cm，鈍頭~円頭，基部はゆがんだ微凹形~鈍形，細鋸歯縁で，表面は長軟毛が散生まれにやや密生，裏面は無毛，まれに長軟毛を散生する。花期は6-11月。杯状花序は小型の葉とともに集散状に集まる。総苞腺体の付属体は花弁状で白色，ときに赤みを帯び，長さ0.2-0.5mmであるが，花期の終わりに出る杯状花序の付属体ではしばしば不透明となる。蒴果は広卵形，長さ約1.8mm，径約2.2mmで無毛。図2n=12。本州~九州に分布する。[原産地]北アメリカ(カナダ南東部以南)および中央アメリカ。[渡来]1904年に寺崎留吉と後藤精一郎が甲府市で採集し，05年に牧野富太郎がこれを *E. hypericifolia* L. として発表した(植雑19:142, Bot. Mag. Tokyo 19:88)。[メモ]よく似たセイタカオオニシキソウ *C. hyssopifolia* (L.) Small; *E. hyssopifolia* L. や，オトギリバニシキソウ *C. hypericifolia* (L.) Millsp.; *E. hypericifolia* L. が琉球に帰化しているが，茎が無毛であることで区別ができる。なお，コニシキソウの学名 *C. maculata* (L.) Small; *E. maculata* L. はオオニシキソウに対して広く誤用されているので，注意が必要である。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	とうだいぐさ 科
種 名	オオニシキソウ



ナンキンハゼ *Sapium sebiferum*
 <南京黄櫨>

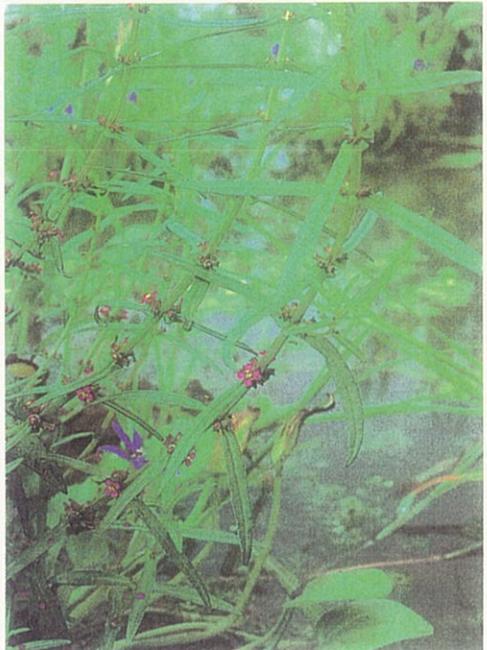
シラク属
 [落葉高木]

公園などによく植えられ、九州の一部には野生化している。高さ15mになる。樹皮は灰褐色。葉は互生し、長さ4~9cmの卵形状広卵形で先は急にとがる。6~7月、枝先や葉腋に長さ6~18cmの穂状花序をだし、芳香のある黄色の花をつける。雌雄同株。雄花は花序の上部に多数つき、雌花は基部に2~3個つく。蒴果は直径約1.3cm。白い口吻に包まれた種子からロウや油をとる。△用途 庭木、公園・街路樹、器具材 ◎分布 中国原産



ナンキンハゼ 花序の上部に黄色の雄花が多数つき、雌花は基部に2~3個つく。78.7.16 神代植物公園 撮影/会田

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	とうだいぐさ科
種名	ナンキンハゼ



2. ホソバヒメミソハギ

Ammannia coccinea Rottb.

水田、川辺の泥土などに生える無毛の一年草。しばしば群生する。根は多数あり、地際から放射状に出るか、匍匐あるいは斜上する根茎から出る。茎は4稜があり、無毛、直立し、高さ20-100cm、斜上する多くの枝を出し、地際の直径は1cmほどになる。葉は狭披針形~線形で対生し、長さ2-8cm、幅0.2-1.5cm、基部はほこ形に張り出して茎を抱き、上部はしだいに細くなり、先端はやや鈍頭、中肋が目立ち、両面無毛。花は6-11月、径約4mm、葉腋に2-5(-14)個つき、花柄は開花時長さ約1mm、果時約3mm、無柄のこともある。萼は開花時には筒状だが、後に果実を包む。花弁は4枚で平開し、紫紅色、円形~円状倒三角形、長さ2mm。雄蕊は4-8個、長さ約3mm、雌蕊は1個、子房は球形で長さ約3mm、花柱は1個、紫紅色、先端は頭状で淡緑色、長さ約2mm。蒴果は球形で、径3-4mm。種子は多数あり、三角錐状で長さ0.3-0.4mm、黒褐色。本州(埼玉県以西)~琉球に分布する。【原産地】北アメリカ。【渡来】

1952年に外山三郎が長崎県佐世保市で採集、津山尚が和名をつけた(原寛 1954 植研 29: 152)。[メモ] 在来種のヒメミソハギ *A. multiflora* Roxb. は、葉が小さく、基部の張り出しも小さく、花は径1.5mmほど。

2. ホソバヒメミソハギ
A. coccinea →p.142
岡山県瀬崎町/
1993. 9. 17/ 鈴木庸

月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	みそはぎ 科
名 称	ホソバヒメミソハギ



5. コマツヨイグサ キレハマツヨイグサ

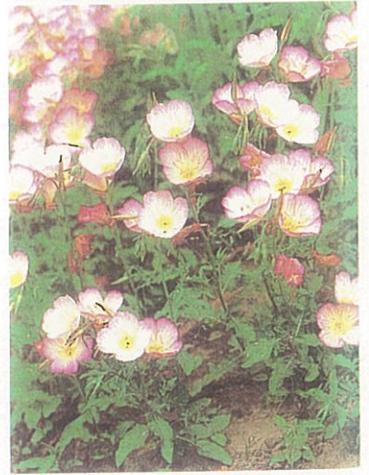
Oenothera laciniata Hill PL64-5

主として、攪乱された場所や沿岸の開けた砂地に生える、一年草または短命な多年草。高さ5-50(-100)cmになり、直立または平伏し、ふつうロゼットをつくる。茎は上部、特に花序に剛毛とともに長毛と腺毛がある。茎の葉は倒披針形~長円形~狭楕円形、長さ2-10cm、幅0.4-3.5cm、縁は浅裂し、鋸歯があるかまたはほぼ全縁で、波打たない。花は4-11月、茎の上部の葉腋につき、自家和合性があり、自家受粉し、夕暮れに開花する。萼筒は長さ1.2-3.5cm、芽では上方に曲がる。萼裂片は長さ0.5-1.5cm、緑色~黄色を帯び、しばしば赤色を帯びるか赤い線が入り、突起は長さ0.3-3mm、先端にあり、開出する。花弁は長さ0.5-2.2cm、とても広い倒卵形、先は凹み、黄色~淡い黄色で、しばむと橙色となる。葯は長さ2-6mm、花粉は50%の稔性がある。子房は剛毛があるか、または長軟毛もあり、ときに少しの腺毛も混じる。柱頭は葯に取り囲まれる。蒴果は長さ2-5cm、長さ1-1.8mm、楕円状~球状で、表面には孔がある。図2n=14。本州(関東以西)~九州に見られる。[原産地]北アメリカ東部。温帯・亜熱帯地域に広く帰化している。[渡来]牧野富太郎・根本莞爾『東京帝室博物館天産課日本植物乾腊標本目録』(1914)に*O. sinuata* L.として記録された。[メモ]浅井康宏(1973)は本種が花の大きさに2型あるとし、大型の花をもつ型にオオバナコマツヨイグサの和名を与え、var. *grandiflora* (S. Watson) Robinsonがこれに当たるとした。さらに浅井(1996)は、オオバナコマツヨイグサは花が大型だけでなく、花色が濃黄色になるなどの相違点があり別種とし、これを*O. grandis* (Britton) Smythに当て、和名をオオキレハマツヨイグサに改めた。Wagner(1999)は本種が幅の広い変異をもつ種であるとし、これを区別していない。オオキレハマツヨイグサがコマツヨイグサ(狭義)から明瞭に区別できるかどうか、今後の広範囲な研究が必要である。なお、葉が狭卵形でほとんど全縁となる型をマルバコマツヨイグサ(浅井康宏1996) *forma integrifolia* Jansen et Kloosという。



月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	あかばな 科
名 称	コマツヨイグサ

4. ヒルザキツキミノウ *O. speciosa* →p.148
 東京都京王百花園/1984. 5. 29/ 鈴木庸



10. ヒルザキツキミノウ

Oenothera speciosa Nutt.

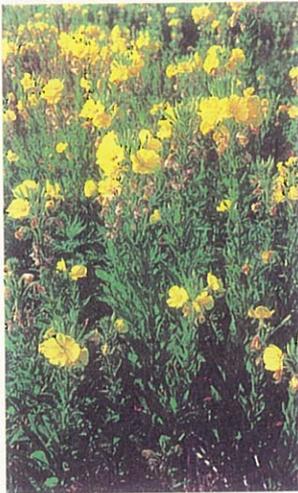
PL66-4

直立し、高さ4-130 cmになる多年草。匍匐する地下茎をもつ。開花時にはロゼットはない。茎は開花前には下垂し、ほぼ無毛または剛毛を生じ、ふつうは長毛が混ざる。茎の葉は倒披針形~狭楕円形、または卵形~倒卵形、長さ2.5-9 cm、幅0.3-3.2 cm、縁は粗い鋸歯をもち、波状に羽状中裂するが、上部の葉はほぼ全縁となる。花は5-9月、茎の上

部の葉腋に少数つき、自家不和合性があり、紅紫花のものは日の出ごろ、白花のものは夕暮れに開花する。萼筒は長さ1-2.5 cm。萼裂片は長さ1.5-3(-5) cm、緑色で、紅紫色の線が入る。萼の突起は長さ0.5-4 mm。花弁はしばむとピンク色または濃紅紫色となり、倒卵形、長さ(1.5-)2.5-4(-4.5) cm、先は凹形。葯は長さ6-16 mm、花粉の粘性は高い。子房は剛毛がある。柱頭は花時に葯の上方にある。蒴果は棍棒状~倒卵状、長さ0.5-1.2 cmで、8つの稜があり、種子がつかない基部の部分は柄状となる。種子は赤褐色、各室に不規則に列生し、長さ1-1.5 mm、紡錘形で、表面には乳頭突起がある。図2n = 14, 28, 42。本州(岐阜県など)、四国(高知県)、琉球から採集されている。[原産地]アメリカ合衆国(中部と東南部)~メキシコ。[渡来]奥山春季は、初め觀賞のために栽培されたが現在は野生化していると記す(1957 原色日本野外植物図譜1)。[メモ]江戸時代末期に渡来し、まれに栽培されるツキミノウ *O. tetraptera* Cav. は、北アメリカ(テキサス州南部~メキシコ)に自生し、本種に似るが、花は夕刻に咲き、二年草で、地下茎はない。茎の上方向につく葉はふつう羽状浅裂~中裂する。栽培からの逸出は知られていない。

年月日	2009年 10月 8日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	あかばな科
種名	ヒルザキツキミノウ

4. メマツヨイグサ
O. biennis →p.145
 北海道常呂町/1994. 7. 10/梅沢



1. メマツヨイグサ

Oenothera biennis L.

PL65-4

直立し、高さ0.3-2mになる二年草で、ロゼットをつくる。全体に緑色で、茎には剛毛と、基部が膨らむ剛毛よりも長い毛が生え、ときには上部に腺毛も出る。茎の葉は倒披針形、長さ5-22cm、幅(1-)1.5-5(-6)cm、縁は歯状で、基部付近はときに波状となり、葉脈は葉面からははっきりしない。花は6-10月、自家和合性があり、夕暮れに開花し、穂状花序に多数つく。苞葉は目だたず、長さは幅の2倍以上になる。萼筒は長さ2-3.5(-4)cm、萼裂片は長さ1.2-2.2(-2.8)cmで、黄緑色、またはまれに赤色を帯びるか、赤い線が入り、先端に長さ0.5-5mmの突起がある。花弁は黄色で、しばむと橙色となり、広倒卵形、長さ1.2-2.5(-3)cm、先は凹む。葯は長さ3-6(-9)mm。花粉には稔性のないものが多く含まれ、大きさに大小があり、稔性は50%程度。子房には剛毛のほか、基部が膨らんだ赤色の長毛がまばらに生えるほか、基部が膨らむ毛もまばらに生える。柱頭は花時、葯に取り囲まれている。蒴果は長さ2-4cm、披針状、緑色で、基部は柄状に細まることはない。種子は各室に2列につき、長さ1.1-2mm、褐色~濃褐色またはほとんど黒色で、角ばり、不規則な孔がある。図2n=14。北海道~

九州に知られ、通常は開けた攪乱された場所に生える。現在はあまり見かけない。【原産地】北アメリカ(合衆国中部~大西洋岸)。世界の温帯と亜熱帯地域に帰化している。【渡来】1920年代か。【メモ】牧野富太郎により、雑誌『科学画報』1巻4号(1923)で命名される。もっともメマツヨイグサの名は齊田功太郎・佐藤貢が『内外植物誌』(1917)で用いているが、楡山庫三(1957)によるとこれはオオマツヨイグサを指しているという。本種とアレチマツヨイグサはしばしば混同される。浅井康宏(1986)は、「この仲間(メマツヨイグサをさす)は近縁種が多いこと、いわゆる種内変異の幅が広く極めて多型なこと、更に環境によって変化し易く、また相互に雑種をつくる、などといった問題点を内蔵する」が故に、原産地でも分類はむずかしく、したがってその二次的な生育(帰化)地である日本での扱いは慎重を要するものであることを指摘した。メマツヨイグサに近似な帰化種としてはほかに、アレチマツヨイグサとノハラマツヨイグサがある。メマツヨイグサとノハラマツヨイグサは花時に花序(茎の上方)が直立して、萼裂片の突起が先端に頂生するのに対し、アレチマツヨイグサは花序が彎曲または下垂し、萼裂片の突起が先端から若干離れた位置にあることを、W.L. Wagnerが指摘している。とはいえ、メマツヨイグサとアレチマツヨイグサの間にはどちらに含めてよいか決めがたい個体も見つかる。浅井はメマツヨイグサとオオマツヨイグサの雑種を報告し、これにオオメマツヨイグサの名を与え、*O. × fallax* Rennerがこれに当たるとした(1996 植研 71:49)。この学名は両種間に人工的につくられた雑種に与えられたものである。なお、同じ種間の雑種に与えられた学名としてこのほかに、*O. × conferta* Renner et Hirmer や *O. × britannica* Rostanski がある。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	あかばな 科
種 名	メマツヨイグサ

1. コバナヤマモモソウ イヌヤマモモソウ

Gaura parviflora Douglas PL64-3

高さ0.3-2mになる一年草。茎は直立し、ふつうは枝分かれせず、長毛や腺状毛が生える。葉はほぼ無柄で、互生し、披針形-狭楕円形、長さ2-12.5cm、幅0.5-4cm、先は鋭尖形、基部は鋭形で、縁には低い鈍鋸歯がまばらに出る。花序は穂状で、長さ10-40cmになり、花時には狭披針形の苞が目だつ。花は4-9月、夕方から咲いて早朝にしぼみ、柄がなく、子房下位で、4数性。萼片は長さ2-3.5mm。花弁は淡紅色~紅色で、萼片よりもいくぶんか短い。雄蕊は8本。柱頭は4裂する。果実は紡錘形

の堅果で、裂開せず、長さ5-11mmになり、2-3(-4)個の種子を入れる。図2n=14。本州(東京都、京都府、岡山・広島県)、九州、琉球(久米島)で採集されている。[原産地]アメリカ合衆国、メキシコ。[遠来]1961年、久内清孝は広島県呉市で太刀掛優が見つけたことを報告している(植研36:367)。また、星大吉により1917年に東京都羽田で採集された標本が国立科学博物館にある(長田武正1972)。[メモ]同属のヤマモモソウ *G. lindhermeri* Engelm. et A. Gray は、明治時代から栽培されていたと考えられ、ときに逸出し、野生状態で見つかるという。

3. コバナヤマモモソウ
Gaura parviflora →p.143
岡山県倉敷市/
1984. 6. 6 / 小島



年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	あかばな科
種名	ヤマモモソウ(ハクチョウソウ)



4. ユウゲシヨウ *O. rosea* →p.148
東京都保谷市/1990. 6. 20/鈴木庸



9. ユウゲシヨウ アカバナユウゲシヨウ

Oenothera rosea L'H-r. PL.67-4

高さ7-65 cmになる多年草で、斜上または平伏し、ロゼットをつくる。主根はなく、ひげ根をもつ。茎には剛毛があり、しばしば長毛が混ざる。茎の葉は楕円形まれに卵形、長さ1-6 cm、幅0.4-2.5 cm、縁はほぼ全縁から波状の鋸歯をもつが、下部の葉では波状に羽状中裂することもある。花は5-9月、直立する茎の上部の葉腋につき、自家和合性があり、夕暮れに開花する。萼筒は長さ0.4-0.8 cm。萼裂片は長さ0.5-1.2 cm、灰緑色または黄緑色で、しばしば紫色を帯び、突起は長さ0.1-1 mm。花弁はピンク色-紅紫色で、しばしば濃色となり、広倒卵形、長さ0.4-1.2 cm。葯は長さ2-3.5 mm、花粉の粘性は半分程度である。柱頭は花時に葯に囲まれる。子房にはふつう密に剛毛が生える。蒴果は棍棒状-狭倒卵状、長さ0.4-1.2 cmで、8つの稜があり、基部の種子のつかない部分は長さ0.5-2 cmの柄状となる。種子は各室に不明瞭に列生し、長さ0.5-0.9 mm、表面には微細な粒があり、両端には黒い点がある。図 2n = 14。本州、四国から報告がある。[原産地] 北アメリカ。世界の暖温帯地域に広く帰化する。[渡来] 栽培品からの逸出で、斉田功太郎・佐藤寛の『内外植物誌』(1917)に観賞用に栽培されることが記されている。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	あかばな 科
種 名	ユウゲシヨウ



1~2. オオフサモ *Myriophyllum aquaticum*
滋賀県今津町/2000. 6. 2/角野 →p.149

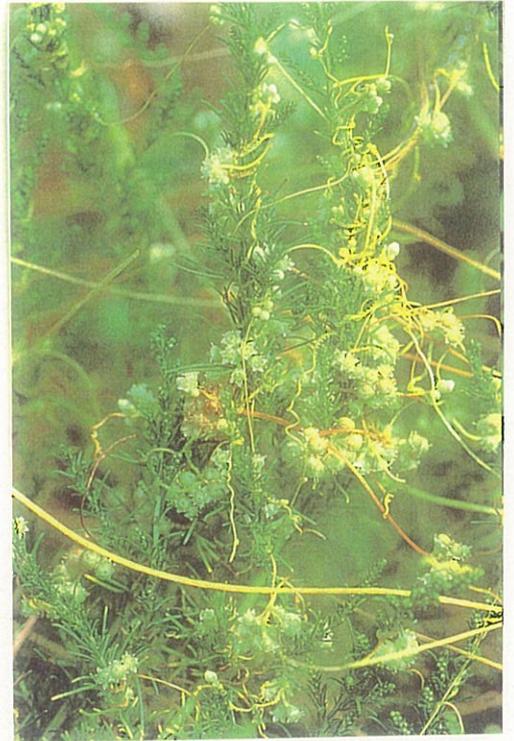
1. オオフサモ スマフサモ 図 Parrot feather
Myriophyllum aquaticum (Vellozo) Verdc.; *M.*

る多年生の抽水植物。雌雄異株で日本には雌株だけが帰化している。他のフサモ属植物の2倍近くある径5mm前後の茎が水中を匍匐しながら分枝を繰り返して、群生する。茎はしばしば赤みがかかる。葉は5-6輪生で、気中葉は全長1.5-5cm、羽状に細裂し、緑白色を呈する。水中にある葉は繊細で、長さ6cmに達する。花は6月ごろ、気中葉の葉腋に着生し、円筒状、柱頭の白毛が目だつ。結実はしない。植物体断片から不定根を出して再生する力がすぐれ、しばしば大群落をなす。特別な越冬芽は形成せず、条

brasilense Camb. Fl.67-1~2
湖沼、ため池、河川、水路などの浅水域に群生す

件によって沈水状態で越冬する場所と、しおれた気中葉が残る場所がある。本州~琉球の主に暖地に分布する。[原産地]南アメリカ。観賞植物として世界各地に広がっている。[渡来]神戸市で牧野富太郎が発見(牧野1922植研2:22)。大正時代ドイツ人が観賞用に持ち込んだものが野生化した(1964岡山の植物)といわれる。[メモ]最初に確認されたのが神戸市の須磨寺であったためにスマフサモの別名がある。英名の「オウムの羽」は、ふさふさした気中葉に由来する。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	ありのとうぐさ科
種名	オオフサモ



1~2. アメリカネナシカズラ
Cuscuta pentagona →p.161
 1. 栃木県藤岡町 / 1998.9.9 / 鈴木庸
 2. 新潟県神埼町 / 1982.8.21 / 木原

3. アメリカネナシカズラ 図 Field dodder
Cuscuta pentagona Engelm. PL73-1~2

つる性の寄生植物。一年草。葉緑はなく、全体は黄褐色。宿主を選ばず、種々の草に寄生する。茎は針金状で無毛、吸盤を出して宿主の茎にからみつく。葉はなく、節に黄褐色の小さい鱗片をつける。8~9月、鱗片の腋に短い集散花序を出し、多数の花を頭状につける。萼は半球形で先は浅く5裂し、裂片は卵円形。花冠は白色、広鐘形で5裂し、径約3mm、裂片は卵形で先が尖り、広く開き、ときに反転する。雄蕊は5本、花冠筒に付着し、先は花冠の外に伸びる。花冠筒の下部に多数の毛状の裂片で縁取られた鱗片がある。花柱は2本、柱頭は短く、頭状に膨らむ。蒴果は球形、径約3mm、下半部は萼筒に包まれ、不規則に果皮が破れて種子を散らす。種子は黒褐色、ゆがんだ楕円形で長さ約1.5mm。北海道~琉球に広く帰化しているのが気づかれ、浅井康宏が和名をつけて報告した(1975 植研 50 : 238-242)。[メモ] 日本に自生するマメダオシ *C. australis* R. Br. に似るが、萼の基部は円形で、花柄との境は明瞭であり、花冠裂片の先は尖り、花柱は細長く約1.8mmなので区別できる。マメダオシでは花期の萼の基部は広くさび形でしだいに花柄になり、花柱は長さ約1mm。

年月日	2009年 10月 10日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	ひるがお科
種名	アメリカネナシカズラ



1. ホシアサガオ *Ipomoea triloba* →p.162
宮崎市/1995.10.15/鈴木庸

4. ホシアサガオ

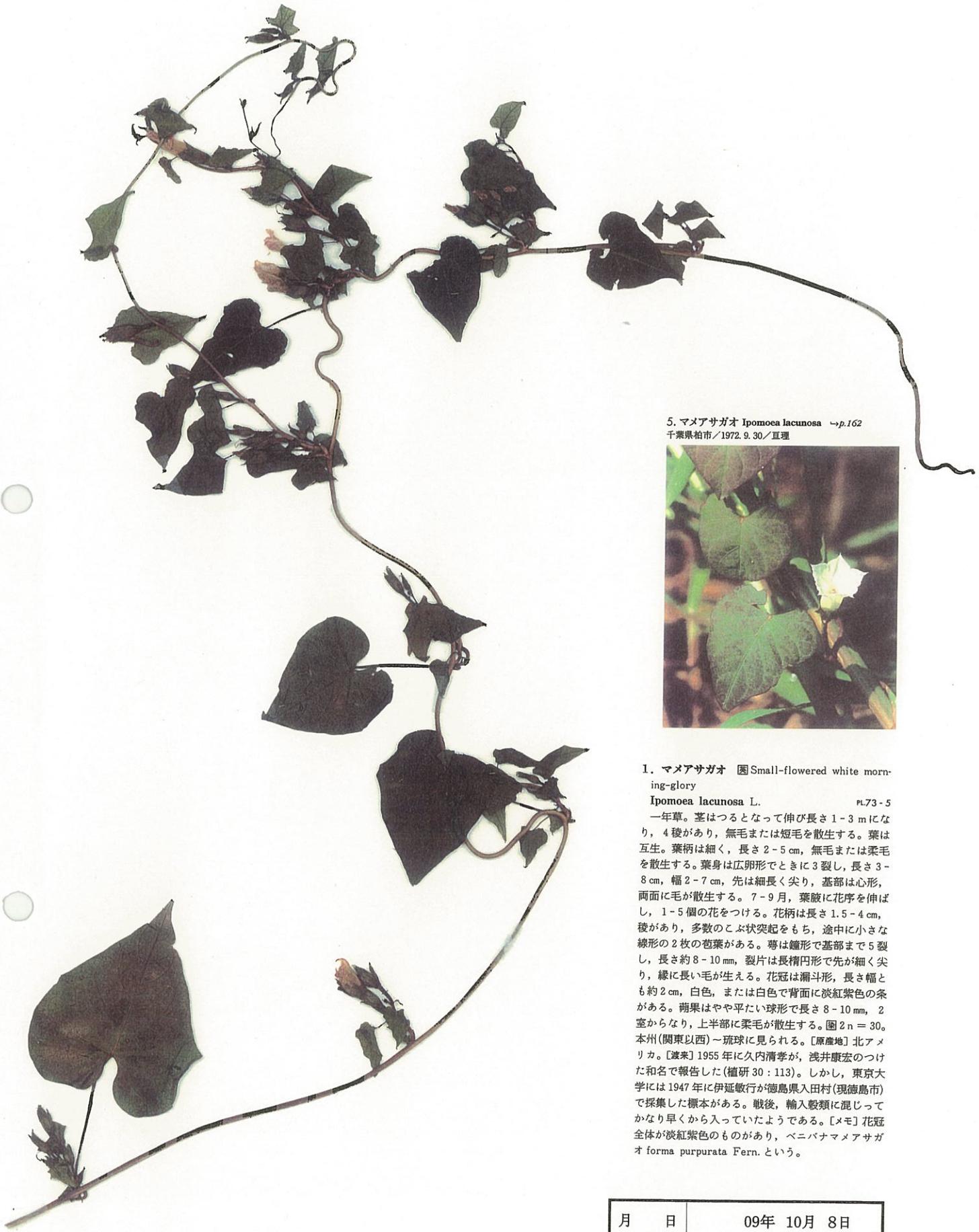
Ipomoea triloba L.

PL74-1

一年草。茎はつるとなつて伸び、4稜があり；無毛、ときに葉のつく所に毛が散生する。葉は互生。葉柄は長さ1.5-6 cm、無毛、こぶ状突起が散生する。葉身は広卵形で全縁または浅く3裂し、長さ3-8 cm、幅2.5-8 cm、先は短く尖り、基部は心形、両面無毛または脈上に短毛がまばらに生える。7-9月、葉腋に長さ3-10 cmの花序を伸ばし、1-7個の花を散形状につける。苞葉は線状披針形で小さい。花柄にはこぶ状突起がある。萼は鐘形で深く5裂し、裂片は長槽凹形-披針形で尖り、長さ7-8 mm、縁に長毛が生える。花冠は漏斗形、長さ約2 cm、径約1.5 cm、先が5裂し、上から見ると星形に見え、淡紅紫色で内面中心部が濃紅紫色。蒴果は球形、径約8 mm、2室からなり、上部に長毛を散生する。圖2n=30。本州(関東以西)~琉球にまれに見られる。[原産地]南アメリカ。[渡来]1944年に津山尚が台湾やミクロネシアに帰化しているものに和名をつけて報告した(植研20:226)。その後、日本でも見られるようになったことから、マメアサガオと同じところに般類に混じって入ってきたものと思われる。

なお、熱帯に広く分布し、琉球にも野生するネコアサガオ *I. biflora* (L.) Pers.; *I. sinensis* (Desr.) Choisy; *I. hartwighii* Hemsley が愛知・福岡県から報告されている。

年月日	2009年 10月 10日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	ひるがお科
種名	ホシアサガオ



5. マメアサガオ *Ipomoea lacunosa* →p.162
千葉県柏市/1972.9.30/互理



1. マメアサガオ 園 Small-flowered white morning-glory

Ipomoea lacunosa L. PL73-5

一年草。茎はつるとなつて伸び長さ1-3mになり、4稜があり、無毛または短毛を散生する。葉は互生。葉柄は細く、長さ2-5cm、無毛または柔毛を散生する。葉身は広卵形でときに3裂し、長さ3-8cm、幅2-7cm、先は細長く尖り、基部は心形、両面に毛が散生する。7-9月、葉腋に花序を伸ばし、1-5個の花をつける。花柄は長さ1.5-4cm、稜があり、多数のこぶ状突起をもち、途中に小さな線形の2枚の苞葉がある。萼は鐘形で基部まで5裂し、長さ約8-10mm、裂片は長楕円形で先が細く尖り、縁に長い毛が生える。花冠は漏斗形、長さ幅とも約2cm、白色、または白色で背面に淡紅紫色の条がある。蒴果はやや平たい球形で長さ8-10mm、2室からなり、上半部に柔毛が散生する。図2n=30。本州(関東以西)~琉球に見られる。[原産地]北アメリカ。[渡来]1955年に久内清孝が、浅井康宏のつけた和名で報告した(植研30:113)。しかし、東京大学には1947年に伊延敏行が徳島県入田村(現徳島市)で採集した標本がある。戦後、輸入穀類に混じってかなり早くから入っていたようである。[メモ]花冠全体が淡紅紫色のものがあり、ベニバナマメアサガオ *forma purpurata* Fern. という。

月 日	09年 10月 8日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	ひるがお 科
名 称	マメアサガオ



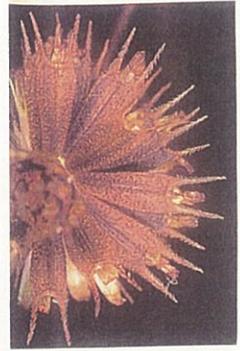
3. アレチハナガサ

Verbenas brasiliensis Vell. PL79-4-5

裸地や礫地、草原に生える多年草。直立して高さ1.5mに達する。全体に剛毛があるが、花序近くを除き茎には少ない。茎の断面はふつう四角形で中実、上部で分枝し、枝は開出する。葉は対生。下部の葉には鋸歯があり、狭楕円形で先はしだいに尖り、基部はくさび状に細まってときに柄状となる。花期は6-9月。穂状花序は斜上して、枝先にやや散漫につき、やや細く、しばしば有柄で長短があり、開花に伴って伸び、果時にはふつう長さ3cm内外。花は花序の基部から先に向かって4-5個が同時に咲き、基部に萼とほぼ同長の苞葉があり、萼は筒状で先が5裂し、裂片は三角形。花冠は萼の2倍くらい長く、淡紫色。果実はやや小さく、4個の種子の成熟とともに4縦裂し、宿存する萼筒の下部に収まる。図2 n = 28。本州(関東以西)~琉球に帰化している。[原産地] 南アメリカ。[渡来] 杉野孝雄が1957年ごろ神奈川県で採集された標本について報告(1971 採集ニュース 5: 89)。長田武正(1972)は同じころに福岡県で雑草化していると述べている。

月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	くまつづら 科
名 称	アレチハナガサ

4, PL100-4.
 アメリカセンダングサ
B. frondosa →p.200
 PL100-4, 山梨市 /
 2000. 9. 29 / 高橋
 4, 1992. 11. 3 / 木原



4. アメリカセンダングサ セイタカタウコギ 図
 Beggar-ticks, Stick-tight
Bidens frondosa L.

PL100-4, 101-4

湿った草地や川岸，休耕田などに生える一年草。茎は直立し，高さ1-1.5m，4稜があり，多く分枝し，紫褐色を帯びる。葉は対生し，羽状複葉。小葉は3または5個で，明瞭な柄があり，長さ8-15cm，披針形で先は長く尖り，縁に粗い鋸歯があり，裏面に細毛がある。花期は9-10月。頭花は径1-2cm，ごく短い黄色い舌状花がある。総苞外片は6-12個，葉のように緑色で比較的大型で放射状につき，本種を見分けるときのよい特徴となる。瘦果は4稜形で，扁平なくさび形，黒褐色，長さは6-10mm，頂端に2個の逆刺のある刺がある。圖n=24，2n=48。北海道～琉球に分布。〔原産地〕北アメリカ。〔渡来〕久内清孝は「大正時代に侵入せるもの如し」(1950)，北村四郎は「1920年頃琵琶湖畔に群生していた」(1934分地3:168)と記している。〔メモ〕瘦果の逆刺で動物に付着して運ばれる。セイタカタウコギの和名は牧野富太郎が名づけ，アメリカセンダングサは1928年大阪市で宇井縫蔵が採集した標本に中井猛之進が手記したものである。

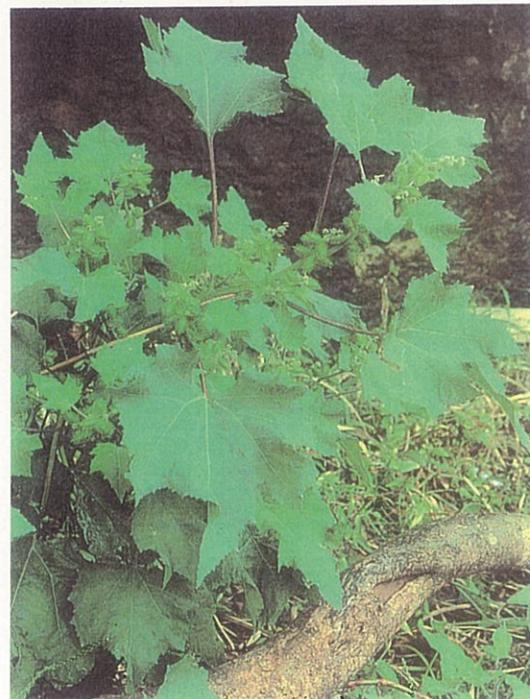
年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	きく科
種名	アメリカセンダングサ



2. オオオナモミ 園 Cocklebur

Xanthium occidentale Bertol. PL106-3

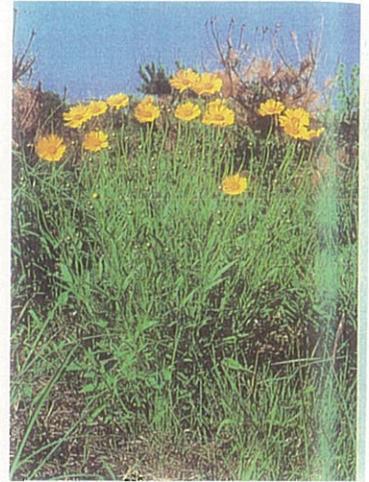
野原や市街地の空き地、河川敷、路傍に生える一年草。茎は短毛があってざらつき、高さ50-200cm、紫褐色を帯び、稜がある。葉は広卵形で、長さ5-15cm、幅4.5-15cm、ふつう3個、ときに5個の中ほどまで裂け、基部は心形、縁は不規則な重鋸歯状で裂片の先は尖り、表面は細かい毛があり、裏面は突起状の短毛があってざらつく。花期は9-12月。雌雄同株。雄頭花は葉腋から出る短い円錐花序をなし、雌頭花は雄花序の下の葉腋につく。雄花は黄白色、雌花は淡緑色。いがは長さ15-25mm、幅10-18mm、頂端に長さ約5mmの2個の角があり、表面に先が曲がった長さ3-6mmの刺が密生し、果体の表面とともに細かい毛がまばらにあって、鱗片状の毛はない。秋-冬に褐色に熟し、内部は2室、各室に1個の種子がある。図2n=36。北海道~九州に分布し、特に関東以西の暖地にいちじるしく広がっている。【原産地】メキシコ原産といわれ、世界に広く分布している。【渡来】1929年に岡山県金光町大谷で吉野善介が記録した(備中植物誌)。【モミ】オナモミ *X. strumarium* L. は、いがが長さ8-14mm、黄緑色~灰褐色に熟し、刺は長さ1-2mm。古くから知られているが、アジアから帰化したものとする考えもある。かつてオナモミが生えていたような所は、ほとんどオオオナモミばかりになり、姿が見られなくなっている。



月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	きく 科
名 称	オオオナモミ



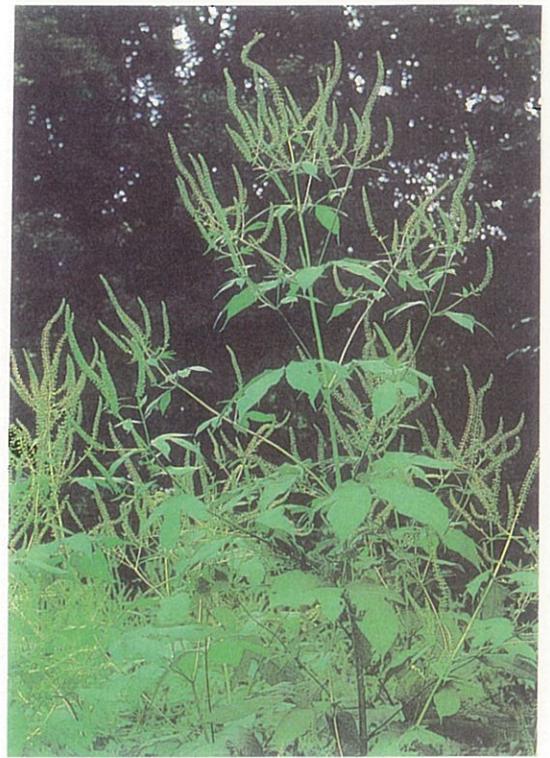
1. オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* →p.207
愛知県武豊町/1994. 5. 13/永田



2. オオキンケイギク 園 Lance-leaved tickseed

Coreopsis lanceolata L. PL102-1
海岸や路傍に生える多年草。茎は高さ30-70cm、葉とともに無毛または開出毛がある。葉は対生、ときに一部互生。根生葉は花時にも残り、長い柄がある。茎葉は狭倒披針形。花期は5-7月。頭花は径5-7cm。総苞片は2列につき、総苞外片は8-10個、草質で開出する。総苞内片は8個くらいで膜質。花床には長さ5-8mmの細長い鱗片がある。筒状花と舌状花は橙黄色、花冠の先は不同に4-5裂。瘦果は扁平、楕円形で黒く、翼がある。図n=10。ほぼ全国的に逸出し、しばしば大群落をつくる。〔原産地〕北アメリカ。〔渡来〕明治の中ごろに渡来し、観賞用に栽培された。〔メモ〕高速道ののり面に種子を播種している。

年月日	2009年 10月 8日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	きく科
種名	オオキンケイギク

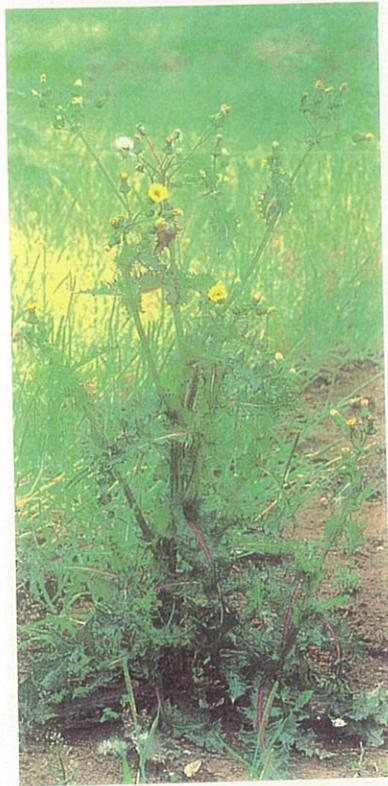


2. オオブタクサ
Ambrosia trifida →p.199
 東京都練馬区/
 1991. 9. 12/
 鈴木麻

3. オオブタクサ クワモドキ 園 Bitterweed,
 Great ragweed
Ambrosia trifida L. PL100-2

空き地や河川敷のやや湿り気のある所に群生する一年草。茎は太く直立して上部で枝分かれし、全体に開出した粗い毛があってざらつき、高さ1-3m、ときに4mを超えることもあり、原産地では6mに達するという。葉はクワの葉に似、対生し、長い柄がある。葉身は長さ20-35cm、掌状に3-5裂し(まれに幼苗では全縁)、裂片は披針形-卵状披針形、鋭尖頭、縁にはさまざまな深さの細かな鋸歯があり、両面ともかたい短毛があってざらつく。花期は7-9月。雌雄同株。雄花序の穂は枝の頂部に総状をなし、長さ5-20cm、雌花はその雄花序の下方の葉腋に数個が塊状に集まってつく。果実(偽果)は倒卵形、長さ7-10mm、先は尖って角状となり、長さは2-4mm、肩に4-8個の刺状の突起がある。図2n=24。北海道~九州に分布。[原産地]北アメリカ。[渡来]1952年に大村敏朗が静岡県清水港で花のない株を採集し、それを植えて開花させたものをクワモドキの名で杉本順一が発表し(1953植研28:372)、千葉市で渡辺清彦が採集したものを久内清孝が同じ号の杉本の報告に続けて発表した(同28:372-373)。[メモ]成長しても葉が分裂しないものをマルバクワモドキ *forma integrifolia* Fern. というが、オオブタクサの若い個体は葉が分裂しないので、これと混同されることが多い。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	きく 科
種 名	オオブタクサ



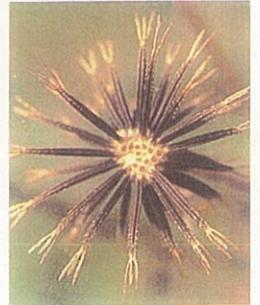
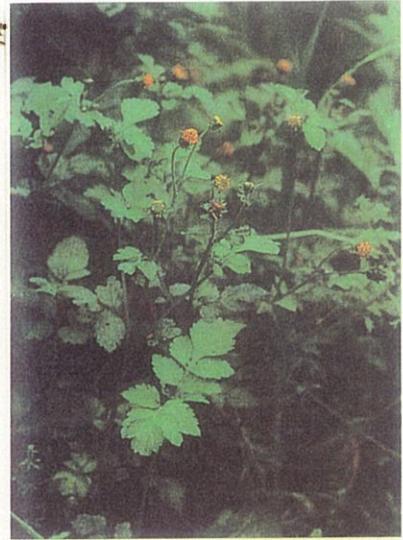
1~2. オニノゲシ
Sonchus asper →p.234
 東京都保谷市/
 1990. 5. 10/鈴木庸



2. オニノゲシ 園 Spiny sowthistle,
Sonchus asper (L.) Hill; *S. oleraceus* L. var.
asper L. pl.125-1~2
 道端, 畑地, 荒地に生える一年草または越年草。
 高さ 20-100 cm。茎は太くて中空。葉は羽状に中裂
 ~深裂し, 表面は光沢があって鋸歯縁, 鋸歯の先は
 鋭い刺になる。中部以上の葉は無柄で基部両側は半
 円形の耳となって茎を抱く。花期は春~夏が最盛期
 だが, ほぼ年中花がある。頭花は径約 1.5 cm, 舌状
 花は黄色, 冠毛は純白, 瘦果は長さ約 2.5 mm, 扁平
 で両面に縦の 3 稜があり, 縁や稜上には微突起がある。
 ノゲシ(ハルノゲシ)*S. oleraceus* L. と異なり,
 瘦果に横脈はない。図 2n = 18。北海道~琉球にふ

年月日	2009年 10月 10日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	きく科
種名	オニノゲシ

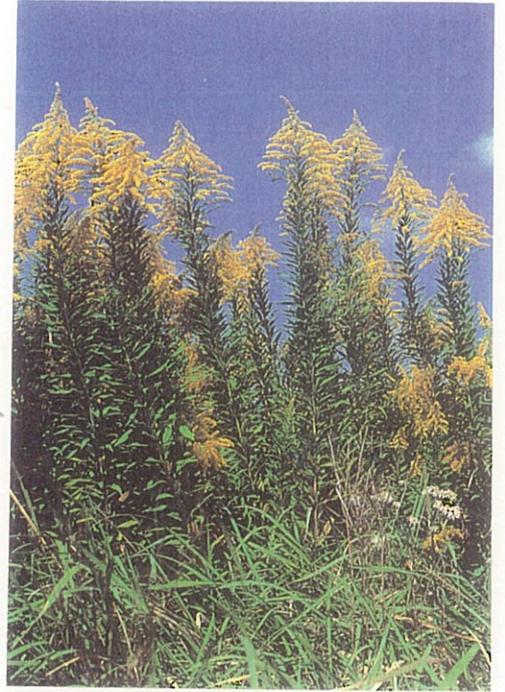
2-3. コセンダングサ *B. pilosa* v. *pilosa* →p.201
 2. 東京都江東区/1998. 4. 25/鈴木新
 3. 千葉県船橋市/1976. 11. 27/亙理



7. コセンダングサ 園 Cobbler's pegs
Bidens pilosa L. var. *pilosa* PL101-2-3

川原，都市の空き地，埋め立て地などに生える一年草。茎は直立し，高さ50-120cm。淡緑色または赤褐色を帯び，稜があり，無毛または短毛がある。葉は下部で対生，上部は互生し，卵状三角形，長さ7-8cm，幅5-6cm。葉身は2-3回羽状に分裂し，小葉は卵状披針形。花期は9-11月。頭花は黄色，筒状花だけでふつう舌状花はないが，ときに短く黄色い舌状花をつける。総苞片は線形で歯牙縁，長さ6-7cm，1列に7-8個つき，縁毛がある。瘦果は4稜形，果体は短い剛毛があり，頂端に3-4本の逆刺のある刺がある。これが衣服や動物に着いて運ばれる。図n=12, 36, 48, 2n=36, 48, 72。本州一琉球に帰化。[原産地] 熱帯アメリカ。世界の熱帯に広く帰化している。[渡来] 牧野富太郎は明治の終わりごろ，滋賀県や京都府にふつうに見られるようになったという(1908 植雑 22: 235)。

年月日	2009年 10月 8日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	きく科
種名	コセンダングサ



1. セイタカアワダチソウ セイタカアキノキリンソウ, ハイザンソウ 図 Tall golden-rod
Solidago altissima L. PL112-1
 道端, 空き地, 河川敷などに生える多年草。長い地下茎で盛んに栄養繁殖をする。茎は高さ 50~250 cm, ふつう紫褐色で短毛が密生。葉は線状長楕円形, 両端は尖り, ほぼ無柄, 低い鋸歯があるかまたは全縁, 長さ 5~15 cm, 幅 1~2.5 cm, 両面とも短毛がありざらつく。花は 10~11 月に咲き, 花序は大きな円錐状で高さ 10~50 cm。頭花は径 3~4 mm, 短い花柄で枝の上面に密生する。総苞は円筒形で高さ約 4 mm, 総苞片は披針形~線状披針形。筒状花は黄色で 3~5 個。舌状花も黄色で 10~18 個, 舌状部は長さ 2~3 mm。瘦果は稜のある円柱形で高さ約 1 mm, 微細毛がある。冠毛は汚白色, 長さ 3~3.5 mm。図 2n = 54。北海道~琉球に分布。[原産地] 北アメリカ。[渡来] 明治時代に観賞用として移入されたものが逸出。戦後急速に分布拡大した。帰化の最初の報告は大阪府の淀川堤(中井源 1949 分地 14:15)であるが, 昭和初期に大阪府の枚方市や池田市などで採集されており, 大正末期には帰化が進んでいたと思われる。ほかの花の少ない晩秋の蜜源植物として,

養蜂業者が広めようとしたこともある。[メモ] 花粉症の原因とされることもあるが, 虫媒花なので花粉の飛散量は多くないものと思われる。花に含まれるジャーマクレンDという成分は単離すると酸化してアレルギー性を示す可能性があるが, そのものにはアレルギー性はない。

月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	きく 科
名 称	セイタカアワダチソウ

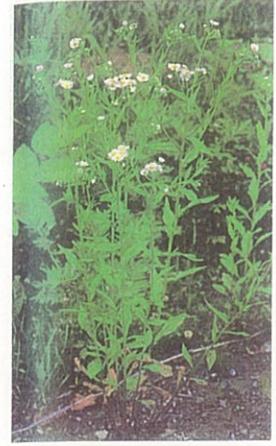


4. ハルシャギク
Coreopsis tinctoria
 ↳p.202
 千葉県我孫子市/
 2001.6.28/高橋

3. ハルシャギク ジャノメギク 図 Golden coreopsis, Garden tickseed
Coreopsis tinctoria Nutt. PL102-4
 河川敷の草地，路傍，空き地に生える一年草。ロゼットで越冬する。高さ50-120cm，全体無毛である。葉は対生し，2回羽状複葉で裂片は線形〜線状披針形，長さ5-10cm。花期は5-7月。頭花は径3-5cm。総苞外片は内片より短い。舌状花は黄色

で基部は紫褐色，筒状花は紫褐色。図 $n=13$ ， $2n=24$ 。【原産地】北アメリカ西部。【渡来】明治の初めに，観賞用として渡来した。【メモ】ジャノメギクの名は，花の中心部が紫褐色で，蛇の目状に見えるところから。舌状花が黒に近いクロバナハルシャギク，八重咲きのヤエノハルシャギクの品種があり，しばしば基本種に混ざって逸出している。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	きく科
種名	ハルシャギク

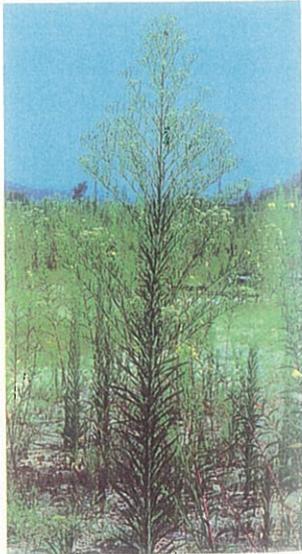


1. ヒメジョオン アメリカグサ, イヌヨメナ, サイゴウグサ, センソウグサ, ヤナギバヒメギク
 園 Annual fleabane, Daisy fleabane, Sweet scabious, White top

Erigeron annuus (L.) Pers.; *Aster annuus* L.;
Stenactis annuus (L.) Cass. PL111-1

いたる所に生える一年草または越年草。茎は高さ30-120 cm, まばらな開出粗毛がある。根生葉は花時枯れる。茎葉は両面に短毛があり, 卵形~狭長楕円形, 鋭頭~鋭尖頭, 長さ5-15 cm, 幅1.5-3 cm, 粗い鋸歯がある。上部の葉はほぼ無柄だが, 下部の葉の柄は長い。花は6-10月に咲く。頭花は径約2 cm, 総苞は半球形で高さ6-8 mm。総苞片は披針形~線状披針形, 鋭頭。筒状花は黄色, 80-100個。舌状花は約100個, 白色~淡紅色, 舌状部は線状, 長さ5-7 mm。瘦果はやや扁平な円柱形, まばらに短毛がある。舌状花の冠毛は長さ約0.2 mmでときに鱗片状に合着する。筒状花の冠毛は長さ約2 mmで, 0.2 mm程度の短い冠毛が混じる。図2n=27。北海道~琉球に分布。[原産地]北アメリカ原産だが, 現在では全世界に広く分布する。[渡来]江戸時代末に観賞用に移入されたものが逸出。牧野富太郎によると, 明治初年には広く雑草化していたという。[メモ]ハルジオンと似るが, 根生葉が花時に枯れること, つぼみがうなだれないこと, 茎が中空でないこと, 舌状花の冠毛が短いことで区別できる。和名は中国の野草である「女苑」にちなむ。舌状花の舌状部が退化したものをボウズヒメジョオンとよぶ。

月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	きく 科
名 称	ヒメジョオン



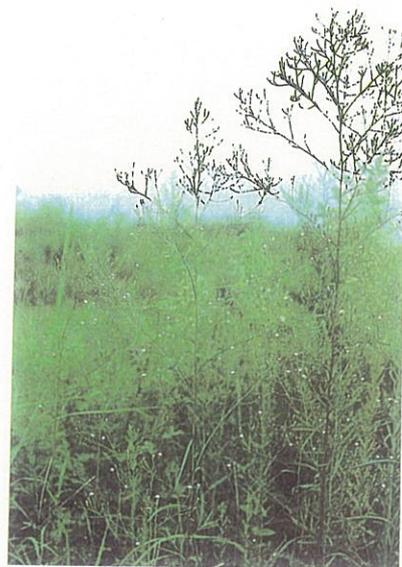
2. ヒメムカシヨモギ カングンソウ, ゴイッシ
グサ, サイゴウグサ, テッドウグサ, メイジソウ,
ヨガワリグサ 園 Horseweed

Conyza canadensis (L.) Cronq.; *Erigeron*
canadensis L. FL110-5

空き地, 道端などに生える一年草または越年草。
茎は高さ 80-180 cm, 開出粗毛が密生する。根生葉
はへら形, 鈍頭, 基部は細まって柄に続く。茎葉は

線形~広線形, 鋭尖頭, 長さ 7-10 cm, 幅 0.5-1.5
cm, まばらな鋸歯があるかまたは全縁, ほぼ無柄,
両面ほぼ無毛で縁に開出毛が目だつ。花は 8-10 月
に咲く。頭花は径約 3 mm, 総苞は卵形~短筒形で,
高さ約 3 mm。総苞片は披針形~線状倒披針形, 鈍頭,
軟毛があり, 縁は膜質。筒状花は 10-15 個, 淡黄
色。舌状花は 30-80 個, 白色, 舌状部は長さ 1 mm
弱で平開。瘦果はやや扁平な円柱形, 短圧毛が多い。
冠毛は白色~淡褐色。図 2n = 18。北海道~琉球に
分布。〔原産地〕北アメリカ原産だが, 現在は世界中
の温帯~熱帯に分布する。〔渡来〕明治初めごろ渡来
し, 短期間で各地に広がった。〔メモ〕茎に毛の少な
いものをウスゲヒメムカシヨモギ var. *glabrata*
Cronq. とすることもがあるが, 区別は困難であり変種
として認めがたい。舌状花が濃桃色のものをベニバ
ナヒメムカシヨモギとよぶ(浅井康宏 1987 植研 62:
14-17)。ヒメムカシヨモギの和名は松村任三『日
本植物名彙』(1884)による。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	きく 科
種 名	ヒメムカシヨモギ



1~2,
ヒロハホウキギク
Aster subulatus
v. *ligulatus* → p.212
1. 神奈川県川崎市/
1998. 9. 11/鈴木庸
2. 埼玉県日高市/
1992. 9. 12/鈴木庸

ヒロハホウキギク var. *ligulatus* Shinners (Fl.110-1~2) は、葉が狭長楕円形~線状長楕円形で、中央部の幅がもっとも広い、花序の枝がより広く(60~90度)開出する、舌状花が淡紅桃色で冠毛よりも長くよく目だつ、花後舌状部が外側へ巻き込み、冠毛がすぐには伸びないなどの点で区別される。図 2n = 10。本州(関東以西)~琉球に分布。[原産地]北アメリカ。[渡来]1960年代に北九州に移入。80年代以降に増加し、関西ではホウキギクと置き変わっている場所が多い。[メモ]和名は長田武正による。*A. subulatus* は原産地でも変異の大きい種であり、日本に帰化しているものの学名についても混乱がみられる。ここでの学名は A. G. Jones の同定(Peng Ching-I への私信)に従った。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	きく 科
種 名	ヒロハホウキギク

1. ブタクサ 園 Ragweed, Roman wormwood, Hogweed, Wild tansy

Ambrosia artemisiifolia L. PL99-4-5

空き地や裸地、河川敷に群生する一年草。やや乾いた空き地や路傍に生える。茎は直立し、高さ30-120 cm、単一または枝分かれし、やや長い毛がある。茎の下部の葉は対生して長い柄があり、上部のものは互生しほとんど無柄。葉身はほぼ三角状卵形で、長さ6-12 cm、ほとんど中肋近くまで羽状に裂け、裂片はさらに深裂し、短い伏毛がある。花期は7月下旬-10月。雌雄同株。雄性の花序は枝の先に細長い総状につき、頭花は径2-3 mm、柄は短く、下向きに咲く。総苞片は合生して皿状の総苞となり、総苞外面はかたい短毛が散生、ときに腺点があり、中に黄色い12-15個の筒状花がある。雌性の頭花は雄性花序の下の葉腋に2-3個つき、花冠のない1

個の雌花が総苞に包まれ、総苞片は合生する。瘦果は総苞に包まれたまま成長してかたくなり、果実を包んで偽果となる。果実は長さ3-5 mm、長卵形で先は尖り、肩の周りに6個内外のかたい突起がある。図 $n = 18$, $2n = 36$ 。北海道-琉球に分布。[原産地]北アメリカ。アジア、ヨーロッパに帰化。[渡来]明治の初めごろに渡来し、昭和に入って急速に全国的に広がった。東京大学の標本室にある、内山富次郎が1880年に千葉県南部で採集し、小石川植物園で栽植した標本がもっとも古いものといわれる(久内清孝1950)。[メモ]花粉は球形。風媒花で、花粉アレルギーを起こす植物として知られている。和名はHogweedの直訳という。荒地の遷移が進むにつれて消えていくが、種子は生命力が強く、長い間土中で生き延び、やがて裸地ができると一斉に萌芽が見られる。



4. 上が雄花, 下に開まっているのが雌花

4-5. ブタクサ
Ambrosia artemisiifolia
→ p.198
4. 東京都練馬区/
1992. 9. 30 / 福田
5. 札幌市/
1994. 9. 13 / 梅沢

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	きく科
種名	ブタクサ



1. ホテイアオイ 図 Water-hyacinth
Eichhornia crassipes (Mart.) Solms-Laub.

PL128-2

富栄養化の進んだ湖沼、ため池、河川、水路などの水面に浮遊する多年草。走出枝を伸ばして次々と子株をつくり、またたく間に水面に広がる。水中に垂れる根は黒紫色で長く、根毛がよく発達する。サイズは生育条件によって変異が大きく、高さ10-80 cm、ときに1 mを超える。葉身は卵心形~円心形で、長さ5-20 cm、幅5-18 cm。葉柄は中ほどが膨れて浮囊となるが、過密状態では浮囊はあまり発達しない。花期は6-11月。葉間から伸びる花茎の先端の総状花序に淡紫色の美しい花を多数つける。花被片は6枚で基部は筒状になる。雄蕊は6本、そのうち3本は長く他の3本は短い。雌蕊は3心皮が合着し

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	みずあおい科
種名	ホテイアオイ



3. オオクサキビ 園 Fall panicum
Panicum dichotomiflorum Michx. PL149-4~5

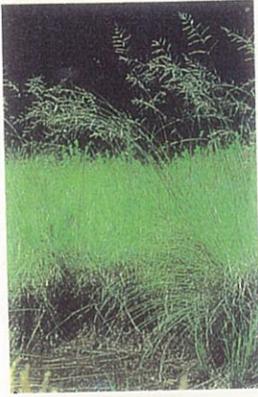
路傍，荒地，河川敷などに生える一年草。茎は太く，直立または斜上し，高さ40-100cm。葉身は長さ20-40cm，幅5-15mm，両面ともに無毛でざらつく。葉鞘は平滑。葉舌は低く，縁には毛列がある。円錐花序は直立し，初め基部が葉鞘に包まれるが，後に大きく散開し，長さ15-30cm，幅10-25cm，枝は斜上し，その上半部に小穂を圧着してつける。小穂は淡緑色ときに黒紫色を帯び，無毛，長さ約2.5mm。小穂の柄には小刺があつてざらつく。第一苞穎の長さは小穂の約1/5で，先は鈍い三角形。第二苞穎と第一小花(不稔)の外花穎は同形で小穂と同長，5-7脈がある。第二小花は結実し，その外花穎は革質で光沢があり，横しわはない。図2n=54。北海道～琉球にふつう。〔原産地〕北アメリカ。〔渡来〕1927年に千葉県市川市で気づかれた(Honda 1929 Bot. Mag. Tokyo 43: 189-190)。〔メモ〕在来のヌカキビ *P. bisulcatum* Thunb. は，やや湿った草地や林縁に生え，花序の枝は広く開き，小穂は下向きに垂れ，柄に小刺がないことで区別できる。



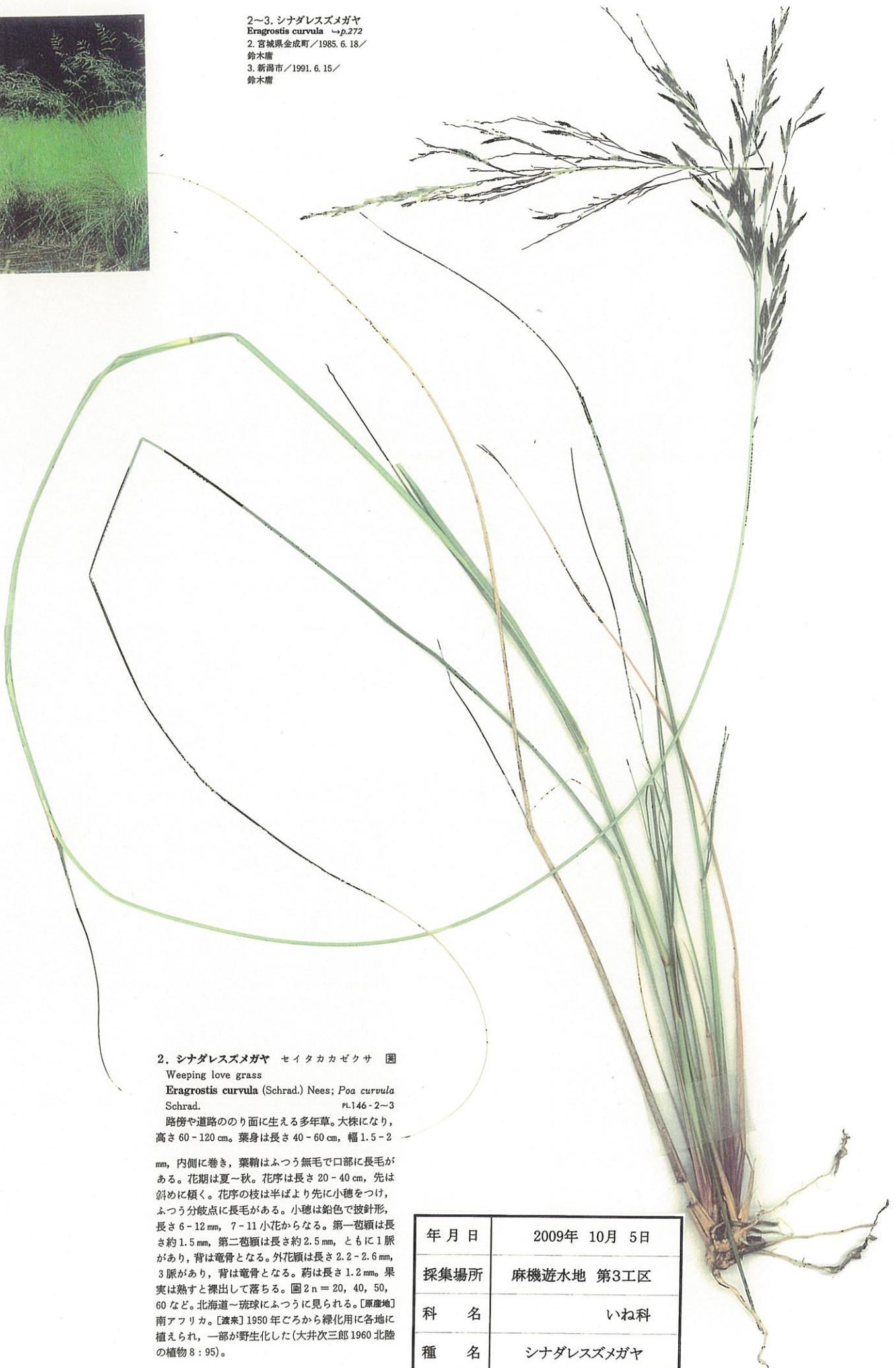
4~5. オオクサキビ
P. dichotomiflorum
 →p.283
 4. 岡山市/
 1984.9.25/小島
 5. 神奈川県座間市/
 2001.9.18/鈴木庸



年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	いね 科
種 名	オオクサキビ



2-3. シナダレスズメガヤ
Eragrostis curvula →p.272
 2. 宮城県金成町/1985. 6. 18/
 鈴木庸
 3. 新潟市/1991. 6. 15/
 鈴木庸



2. シナダレスズメガヤ セイタカカゼクサ 園

Weeping love grass

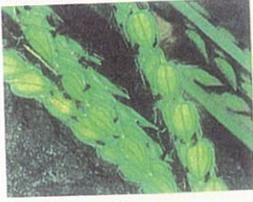
Eragrostis curvula (Schr.) Nees; *Poa curvula*
 Schr. PL.146-2-3

路傍や道路ののり面に生える多年草。大株になり、
 高さ 60-120 cm。葉身は長さ 40-60 cm, 幅 1.5-2

mm, 内側に巻き, 葉鞘はふつう無毛で口部に長毛がある。花期は夏~秋。花序は長さ 20-40 cm, 先は斜めに傾く。花序の枝は半ばより先に小穂をつけ, ふうふう分岐点に長毛がある。小穂は鉛色で披針形, 長さ 6-12 mm, 7-11 小花からなる。第一苞穎は長さ約 1.5 mm, 第二苞穎は長さ約 2.5 mm, ともに 1 脈があり, 背は竜骨となる。外花穎は長さ 2.2-2.6 mm, 3 脈があり, 背は竜骨となる。葯は長さ 1.2 mm。果実は熟すと裸出して落ちる。図 2n = 20, 40, 50, 60 など。北海道~琉球にふつうに見られる。[原産地] 南アフリカ。[渡来] 1950 年ごろから緑化用に各地に植えられ, 一部が野生化した(大井次三郎 1960 北陸の植物 8: 95)。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	いね科
種名	シナダレスズメガヤ

1~2. シマズメノヒエ
Paspalum dilatatum →p.285
 1. 神奈川県綾瀬市/1996. 7. 30/高橋
 2. 栃木県鹿沼町/1998. 9. 9/鈴木庸



2. シマズメノヒエ 図 Dallis grass

Paspalum dilatatum Poir. pl.150-1~2

路傍や土手に多い多年草。叢生し、高さ50-150 cm。葉身は長さ10-30 cm、幅5-12 mm、両面ともに無毛。基部の葉鞘には開出毛があるが、上部の葉鞘は口部を除いて無毛。葉舌は高さ2-4 mm。花序は3-7本の穂を開出またはやや下垂してつける。穂は長さ5-10 cm、穂の基部には白色長毛があり、軸の片側に2-3列に小穂が並ぶ。小穂は短い柄があって、卵形で先は鈍く尖り、長さ3-3.5 mm、緑色、縁には白色長毛がある。第一苞穎はない。第二苞穎と第一小花(不稔)の外花穎は同形で、小穂と同長、3脈がある。第二小花は結実し、その外花穎は革質で光沢がある。開花時には黒紫色の柱頭と葯が目立つ。葯は長さ約1 mm。図 2n = 20, 40, 50。本州~琉球によつうに見られる。[原産地] 南アメリカ。世界の熱帯~温帯に広く帰化。[渡来] 1915年に小笠原で採集された(本田正次 1922 植雑 36: 115)。本州では第二次大戦後に緑化用に使われ、急速に増加した。[メモ] 暖かい地方で牧草として使われる。

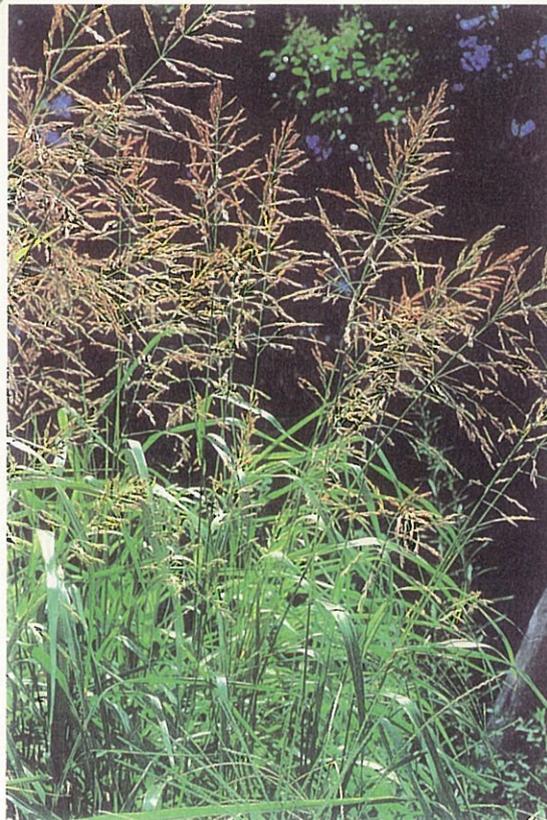
月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	いね 科
名 称	シマズメノヒエ

2. セイバンモロコシ 図 Johnson grass

Sorghum halepense (L.) Pers.; *Holcus halepensis* L. PL153-4

畑地や路傍に生える多年草。葉身は長さ20-60cm、幅1-2cmで、中肋は太くて明瞭。葉の縁はふつうざらつく。花期は7-9月。短い総を円錐状に配置した花序をつける。総には数節があり、有柄小穂と無柄小穂が対をなす。有柄小穂は無柄小穂より小さく、雄性で、芒がない。無柄小穂は両性花をもち、芒がある場合は第二小花の外花穎から出る。図2n=20, 40。本州-九州に分布する。〔原産地〕地中海原産とされ、現在は世界の暖地に帰化している。〔渡来〕浅野貞夫が1943年に千葉県東條村(現東庄町)で採集した(久内清孝1950)。〔メモ〕牧草から逸出した。芒のない型をヒメモロコシ(ノギナシセイバンモロコシ) *forma muticum* (Hack.) C. E. Hubb. (PL153-5) という。

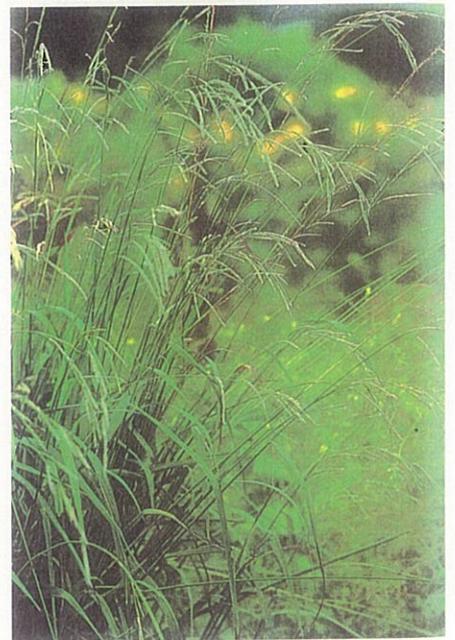
なお、インド-東南アジア、琉球(石垣島)に自生するヒメカモノハシ(図 Indian murainagrass) *Ischaemum indicum* (Houtt.) Merr.; *Phleum indicum* Houtt. が、1993年に兵庫県加西市で採集されている(藤本義昭1994 兵庫の植物4:5)。



4. セイバンモロコシ
Sorghum halepense
愛知県半田市 /
1994. 8. 21 / 永田 →p.290

年月日	2009年 10月 8日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	いね科
種名	セイバンモロコシ

3~4. タチスズメノヒエ
Paspalum urvillei →p.286
 東京都木場公園/2001.9.6/鈴木麻 3



4

7. タチスズメノヒエ 図 Vasey grass

Paspalum urvillei Steud. PL150-3~4

多年草。高さ70-150cm。葉身は長さ10-40cm, 幅5-15mm, 両面ともに無毛, または裏面にのみまばらに毛がある。基部の葉鞘には開出毛があるが, 上部の葉鞘は口部を除いて無毛。葉舌は高さ2-4mm。花序は10-20本の総を直立または斜上する。総は長さ4-10cm, 総の基部には白色長毛があり, 軸の片側に2-3列に小穂が並ぶ。小穂は短い柄があって, 卵形で先は尖り, 長さ2-2.7mm。第一苞穎はない。第二苞穎は小穂と同長, 背面には白色長毛がある。第一小花(不稔)の外花穎は第二苞穎と同形同大, 中脈のみが目立ち, 背面は無毛, 縁には白色長毛がある。第二小花は結実し, その外花穎は革質で光沢がある。開花時には黒紫色の柱頭が目立つ。葯は淡黄色で長さ約1mm。図2n=40。本州(関東以西)~琉球にややみづう。[産地] 南アメリカ。世界の熱帯~温帯に広く帰化。[渡来] 1958年に福岡県北九州市の海岸埋め立て地で見いだされたのが最初(長田武正 1967 帰化植物図譜)。

年月日	2009年 10月 10日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 名	いね 科
種 名	タチスズメノヒエ



5, PL151-1.
 キシュウスズメノヒエ
Paspalum distichum
 v. *distichum* → p.285
 5. 静岡市 /
 2001. 9. 9 / 勝山
 PL151-1, 東京都水元公
 園 / 1984. 8. 30 / 鈴木庸



3. キシュウスズメノヒエ カリマタスズメノヒエ
 図 Knot grass
Paspalum distichum L. var. *distichum*

PL150-5, 151-1

湿地や水路に群生する多年草。茎は基部が長く匍
 匐し、節から発根し、枝を分けて直立し、高さ20-

40 cm。葉身は長さ5-10 cm、幅3-8 mm、葉鞘口部
 にのみまばらに長い毛があるほかは、葉鞘とともに
 無毛。花序は2個の総からなり、総は長さ2.5-8
 cm、軸の片側にほぼ2列に小穂が並ぶ。小穂は長楕
 円形で先は尖り、長さ約3 mm。第一苞穎はないか、
 きわめて小さく鱗片状。第二苞穎は小穂と同長、3
 脈があり、背面には微細な毛がある。第一小花(不
 稔)の外花穎は第二苞穎と同形同大、3脈があり、
 ほとんど平滑。開花時には紫黒色の柱頭が目だつ。
 葯は長さ約1.5 mm。図 $2n = 60$ (6倍体)。本州(関
 東以西)~琉球。最近、増加傾向にあり、暖地では
 水田雑草として問題化している。【原産地】世界の熱
 帯。【渡来】1924年に和歌山県野崎村(現和歌山市)で
 小川由一により採集され、本田正次が同定し、和名
 をつけた(宇井縫蔵 1929 紀州植物志)。

変種のチクゴスズメノヒエ var. *indutum* Shinnars
 は、キシュウスズメノヒエに比べて全体にやや大型、
 葉鞘や節に基部がこぶ状に膨れた毛が密生すること
 と、小穂に披針形の第一苞穎があることで区別でき
 る。葯は紫黒色で長さ約1.8 mm。図 $2n = 40$ (4倍
 体)。本州(関東以西)~九州に分布。最近、増加傾
 向にあり、水田雑草として問題化している。キシュ
 ウスズメノヒエよりも水深が深いところに生える。
 【原産地】北アメリカ南部。【渡来】1982年に福岡県の
 筑後川下流で気づかれた(千歳昭二ほか 1982 雑草研
 究 27 : 283-287)。

月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	いね 科
名 称	チクゴスズメノヒエ



2. メリケンカルカヤ
Andropogon virginicus →p.289
 千葉県印旛沼/1974. 10. 6./互理

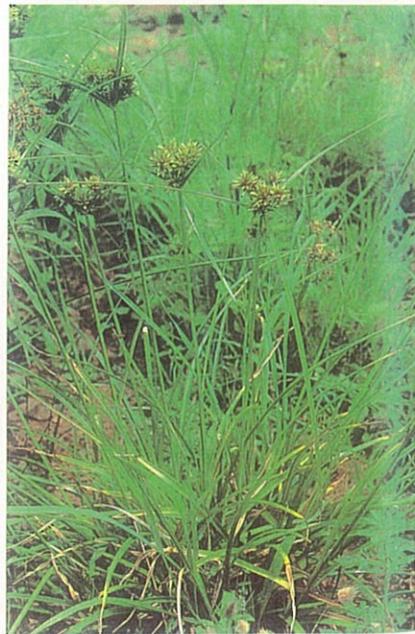
1. メリケンカルカヤ 図 Broomsedge

Andropogon virginicus L. PL152-2

草地や路傍に生える多年草。直立し、高さ50-80cm。熟すと全体が赤褐色になる。稈の上部に花序をつけ、分枝する。葉身は2つに折れ、まばらに毛が生え、葉鞘の口には密に長毛が生える。白い長毛の生えた総が、葉身の退化した総苞葉に包まれる。総には、有柄小穂と無柄小穂が対をなすが、有柄小穂は退化し、柄のみになる。無柄小穂は2小花からな

る。第一小花は膜状の外花穎のみになり、第二小花は両性で、外花穎は小さな膜質部の先に長さ1-2cmの芒をつける。総の中軸は熟すと分解し、無柄小穂は、長さ8mmを超える長毛が生えた有柄小穂の柄や中軸とともに、風で散布される。図 2n=20。本州~九州に分布。【原産地】北アメリカ。南アメリカ、アジア、オーストラリアに帰化する。[渡来] 京都府で實村正巳が採集し、荒木栄一が和名を新称した(大井次三郎1942分地11:168)。

年月日	2009年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科名	いね科
種名	メリケンカルカヤ



3~4. メリケンガヤツリ
C. eragrostis →p.297
 3. 東京都木場公園/1998. 7. 7/
 鈴木庸
 4. 神奈川県座間市/2001. 9. 18/
 鈴木庸



6. メリケンガヤツリ 圖 Tall umbrellaplant, Pale
 galingale
Cyperus eragrostis Lam. PL158-3-4

河川や溝などの水辺に生える多年草。短い根茎がある。茎は高さ30-100cm, 3稜がある。葉は長いものでは茎と同高で、幅4-8mm。基部の2-3個の鞘は葉身がほとんどなく、赤色を帯びる。葉状の苞葉は4-7個あり、線形で、長いものは花序より長く、ときに長さ50cm以上になる。散形花序は5-10個の枝を出し、枝先に多数の小穂を密集した径1-2cmの球形の分花序をつける。枝はふつう長さ5-6cmであるが、生育のよいものでは復生し、生育の悪いものでは枝がほとんど発達せず、花序は頭状になることもある。小穂は扁平な長楕円形で、長さ5-20mm, 幅約3mm, 白色を帯びた緑色で、10-50個の鱗片が2列につく。鱗片は長さ約2mm, 縁は膜質で、背部は丸みを帯びた2つ折りとなる。雄蕊は1個。花柱は長さ約0.5mm, 柱頭は3岐して長さ約0.5mm。瘦果は倒卵形で3稜があり、長さ約1mm。小穂基部に関節はなく、熟すと鱗片や瘦果が落ち、小穂の軸が残る。圖 2n = 42。本州(関東以西)一琉球、小笠原に帰化。神奈川県では1980年代には相模川の河川敷に多く、他ではまれであったが、90年代後半には鶴見川、多摩川から中小の河川に至るまで分布を広げた。今後、本州の分布は急速に拡大するものと思われる。[原産地] 熱帯アメリカ。南・北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアの熱帯~暖温帯に広く帰化。[渡来] 久内清孝が1959年に三重県四日市港への帰化を報告した(1960 植研 35: 239)。[メモ] 小穂基部に関節がなく、柱頭が3岐し、カヤツリグサ亜属に属す。

月 日	09年 10月 5日
採集場所	麻機遊水地 第3工区
科 別	かやつりぐさ 科
名 称	メリケンガヤツリ